

塗床材総合カタログ

SKK FLOOR COATINGS



さまざまなニーズに応える 塗床材が豊富にラインアップ

今日、床に求められる要求性能はますます多様化しています。

例えば、工場・倉庫では、耐衝撃性、耐摩耗性に優れた耐久性の高い製品が求められ、また、学校・病院等では環境に配慮した製品が求められます。

エスケー化研では、優れた性能を備える塗床材を、各種取り揃えております。さまざまな用途に応じて最適な製品をお選びください。



目次

製品別用途一覧表	2
製品一覧表	3
耐薬品性資料	5
環境対応状況一覧	6
標準色一覧	6
アーキフロアーEH無溶剤	7
アーキフロアーEH無溶剤ローラー用	8
アーキフロアーUE	9
SKセラミフロアー	10
水性速硬型ミラクフロアー	11
アーキフロアーEHマイルド	12
アーキフロアーEH	13
水性アーキフロアーU	14
アーキフロアーUT	15
アーキフロアーAWG	16
アーキフロアーAW	17
アーキフロアーAS	18
SKバリヤーコート	19
アーキタイトエコ	20
導電型ミラクフロアー	21
標準施工仕様	22
下地処理工法	29
床用下地調整材	31
施工上の注意点	32
注意点／危険情報と安全対策	33

製品別用途一覧表（上塗材）

分類	製品名	用途																											
		工場床						倉庫・搬送床		オフィス・マンション						学校・病院					レジャー施設					駐 車 場・駐 輪 場			
		一 般 工 場	機 械 工 場	※1 食 品 工 場	化 学 工 場	精 密 工 場	機 械 室・電 気 室	更 衣 室・事 務 室	台 車・手 押 し 車	フ ォ ーク リ フ ト・車 両	冷 蔵・冷 凍 倉 庫	事 務 算 室	電 算 室	〇 A フ ロ ア ー	化 粧 室	廊 下・階 段	ベ ラ ン ダ	教 室	実 験 室	病 室	廊 下・階 段	食 堂	厨 房	レ ス ト ラン	テ ニ ス コ ー ト		プ ール サ イ ド	遊 歩 道 ア ス フ ァ ル ト	コ ン ク リ ー ト
厚膜型	アーキフロアー EH 無溶剤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		○	(○)			◎	◎	(○)	◎	○							(○)
	アーキフロアー EH 無溶剤ローラー用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		○	(○)			◎	◎	(○)	◎	○							(○)
	アーキフロアー U E											○			◎		◎		◎	◎			◎	○					
薄膜型	S Kセラミフロアー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	◎	○	○	○	○	○					○		○	○
	水性速硬型 ミラクフロアー	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○		○	○	○	○	○								(○)
	アーキフロアー E H マイルド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	(○)		○	○	○	(○)	○								(○)
	アーキフロアー E H	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	(○)		○	○	○	(○)	○								(○)
	水性アーキフロアー U	○		○		○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○						※2 ◎	◎	○
	アーキフロアー U T	○		○		○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○					○		○	○
	アーキフロアー AWG	※3 ○											○		○					○							※2 ◎	◎	
	アーキフロアー AW	※3 ○											○			○									○		※2 ◎	◎	
	アーキフロアー A S	※3 ○							○							○					○							○	
浸透型	S Kバリアーコート	○					○	○	○			○		◎															(○)
	アーキタイトエコ	○					○	○	○	○		○		◎															(○)
導電型	導電型ミラクフロアー					◎						◎						○	○										

◎：最適 ○：適用可 ※1 高温洗浄などの厳しい条件下では、塗膜が剥離する場合がありますので、選定に際して、詳しくは別途お問い合わせください。 ()：内部のみ適用可能
 ※2 密粒アスファルト以外は施工不可
 ※3 フォークリフトなど、荷重のかかる通路へは不向き

製品一覧表

	タイプ	製品名	特長・用途	荷姿	可使時間*	
上塗材	厚膜型	★アーキフロアー EH 無溶剤	厚膜タイプのエポキシ塗床材です。耐荷重性、耐薬品性、耐久性に優れています。	主剤15kg石油缶、5kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	30 分	
		★アーキフロアー EH 無溶剤 ローラー用	セルフレベリング性に優れているため、ローラーで簡単に施工できます。	主剤15kg石油缶、5kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	30 分	
		★アーキフロアーUE	厚膜弾性耐久ウレタン塗床材です。クッション性があり、ソフトな歩行感、防音・防水性に優れています。	主剤10kgペール缶、 硬化剤8kg石油缶	30 分	
	薄膜型	★SKセラミフロアー	シロキサン結合を構造内に持つことにより、無機質下地と化学的に密着し、また耐薬品性に優れます。	主剤14kg石油缶、3.5kg缶 硬化剤1kg缶、0.25kg缶	5 時間	
		水性速硬型ミラクフロアー	水性でありながら、溶剤形塗料に匹敵する、耐摩耗性、耐薬品性を示します。	主剤12kg石油缶、 硬化剤3kg缶	4 時間	
		★アーキフロアーEHマイルド	架橋密度の高い塗膜は、優れた耐摩耗性、防塵性を発揮します。また、弱溶剤形のため旧塗膜を侵すことなく幅広く施工できます。	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	5 時間	
		★アーキフロアーEH	硬くて強靱な塗膜は、耐摩耗性、耐汚染性に優れています。	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	2 時間	
		☆水性アーキフロアー U	水性反応硬化形ウレタン樹脂をベースとした強靱な塗膜は、優れた耐摩耗性、耐薬品性と共に、高い耐候性を示し、紫外線による劣化、変退色を抑えます。	主剤15kg石油缶、4kg缶 硬化剤1.5kg缶、0.4kg缶	3 時間	
		★アーキフロアーUT	無黄変型のアクリルウレタン樹脂で構成されているため、色の安定性、耐候性に優れています。また、優れた耐汚染性、耐摩耗性を発揮します。	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	3 時間	
		アーキフロアーAWG	特殊アクリルエマルジョンを結合材とした水系塗床材です。溶剤形に匹敵する性能を発揮し、優れた耐久性、高い光沢を示します。	15kg石油缶、4kg缶	—	
		アーキフロアーAW	防塵性に優れた水性アクリル樹脂系塗床材です。	20kg石油缶、4kg缶	—	
		★アーキフロアーAS	一液形のアクリル塗床材です。手軽に塗れて防塵性、耐候性に優れ、経済的です。	15kg石油缶、4kg缶	—	
	浸透型	SKバリアーコート	水性タイプのコンクリート表面強化材です。床面の耐摩耗性を高め、粉塵を抑制します。	18kg石油缶	—	
		アーキタイトエコ	ハイソリッドタイプの水性コンクリート浸透表面強化材です。床面内部深くまで浸透し、硬く緻密で耐摩耗性を高めた表面に改質します。	18kg石油缶	—	
	導電型	★導電型ミラクフロアー	帯電防止用の塗床材です。静電気を嫌う施設の床に最適です。	主剤12kg石油缶、硬化剤3kg缶	3 時間	
	仕上塗料	★アーキトップ # 2000	アーキフロアーUEの上塗り	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	5 時間	
下塗材	下塗材	☆水性速硬型ミラクフロアープライマー	水性速硬型ミラクフロアーの専用プライマー	主剤8kg石油缶、硬化剤4kg缶	5 時間	
		★EHマイルドプライマー	アーキフロアー EH マイルドの専用プライマー	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	5 時間	
		★アーキフロアーEHプライマー	エポキシ樹脂系塗床材の専用プライマー。アーキフロアーEH・EH無溶剤・EH無溶剤ローラー用に使用	主剤12kg石油缶、4kg缶 硬化剤3kg缶、1kg缶	5 時間	
		★ミラクシーラーEPO	エポキシ樹脂系下塗材で、アーキフロアーUTの専用プライマー	主剤10kg石油缶、硬化剤5kg缶	5 時間	
		★導電型ミラクフロアープライマー	導電型ミラクフロアーの専用プライマー	主剤12kg石油缶、硬化剤3kg缶	5 時間	
		★ミラクフロアーMHプライマー	床面の塗り替え用にミラククリーナーと併用して湿潤・湿油面に使用	主剤8kg石油缶、硬化剤8kg缶	5 時間	
		水性アーキフロアープライマー	水性アーキフロアーU、アーキフロアーAWGの専用プライマー	15kg石油缶	—	
		★アーキプライマー	アーキフロアーUEの専用プライマー	16kg石油缶	—	
		★SK # 2000 プライマー	SKセラミフロアーの専用プライマー	主剤15kg石油缶、5kg缶 硬化剤1.5kg缶、0.5kg缶	5 時間	
副資材	油面クリーナー	ミラククリーナー	含浸・付着している鉱物油、植物油などを除去し、緻密な下地をエッチングする洗浄剤	10kg ポリ缶	—	
	エポキシパテ	★SK コークH	ひび割れの充填用エポキシ樹脂系パテ材 夏型(SKコークHS)、冬型(SKコークHW)	A剤2kg缶、B剤2kg缶	夏型：1 時間 冬型：30 分	
	エポキシセメント モルタル	★SK ウェットフィラー	コンクリート床面の不陸調整用エポキシポリマーセメント系下地調整材。工期短縮形のコンクリート・モルタル用下地調整材としても使用可	主剤2kg缶、硬化剤4kg缶、 粉体10kg袋	20 分	
	目止め材	アーキミックス	アーキフロアーEH無溶剤・EH無溶剤ローラー用の平滑工法、樹脂モルタル工法に使用	3kg袋	—	
	骨材	けい砂5号・6号・7号	NS工法用骨材	各30kg袋	—	
		エストップ # 40	アーキフロアーUEのNS工法用骨材	12kg袋	—	
	希釈用シンナー	★塗料用シンナー A	アーキフロアーEHマイルドの専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	
		★EHシンナー	アーキフロアーEH、導電型ミラクフロアーの専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	
		★アーキUシンナー	アーキフロアーUT、アーキトップ#2000の専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	
		★エナメル用シンナー	アーキフロアーASの専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	
		★SKセラミフロアーシンナー	SKセラミフロアーの専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	
		★SK # 2000 プライマーシンナー	SK#2000プライマーの専用シンナー	16 ℓ 石油缶	—	

★塗料用シンナーAで希釈する製品については、★塗料用シンナーAの他、★塗料用シンナーXもご使用いただけます。

* 23℃条件下

危険情報と安全対策

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は危険物であり、☆印のついている製品は水性形硬化剤で取り扱いに注意が必要のため、P.33からの「危険情報と安全対策」をよくお読みください。
アーキフロアーUEは、特定化学物質等障害予防規則(特化則)第二類物質を含有しています。取り扱いにあたっては、特定化学物質作業主任者の選任が必要です。また、安全データシート(SDS)記載事項に従い注意して作業してください。

	ホルムアルデヒド放散等級	樹脂系	区分	光沢	工法	膜厚	設計価格 (円) ※	標準塗坪 (セツ)	掲載頁
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	無溶剤	艶有り	平滑工法(薄膜流しのべ仕上げ)	0.8mm	㊤3950	16.3㎡	7,8
						1.0mm	㊤4350	13.8㎡	
					NS工法(薄膜流しのべ防滑仕上げ)	1.5mm	㊤4400	18㎡	
					ペースト工法(厚膜流しのべ仕上げ)	2.0mm	㊤6650	8㎡	
					ペーストNS工法(厚膜流しのべ防滑仕上げ)	2.5mm	㊤7700	7.4㎡	
					樹脂モルタル工法(樹脂モルタル仕上げ)	5.0mm	㊤9550	6.1㎡	
					樹脂モルタルNS工法(樹脂モルタル防滑仕上げ)	5.5mm	㊤10800	5.7㎡	
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	無溶剤	艶有り	平滑工法(薄膜流しのべ仕上げ)	1.0mm	㊤4350	13.8㎡	8
					NS工法(薄膜流しのべ防滑仕上げ)	1.5mm	㊤4400	18㎡	
	F☆☆☆☆	弾性ウレタン樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(流しのべ仕上げ)	1.7mm	㊤6100	9㎡	9
					NS工法(流しのべ防滑仕上げ)	2.0mm	㊤6300	9㎡	
	F☆☆☆☆	アクリルシリコン樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2850	53㎡	10
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3800	39㎡	
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	水性	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2350	50㎡	11
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3200	33㎡	
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	弱溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2450	42㎡	12
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3400	27㎡	
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2350	42㎡	13
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3300	25㎡	
	F☆☆☆☆	ウレタン樹脂	水性	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2550	55㎡	14
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3500	34㎡	
	F☆☆☆☆	ウレタン樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤2350	42㎡	15
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤3300	28㎡	
	F☆☆☆☆	アクリル樹脂	水性	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤1800	50㎡	16
					NS工法(防滑仕上げ)	—	㊤2700	33㎡	
	F☆☆☆☆	アクリル樹脂	水性	艶消し	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	1300	66㎡	17
					NS工法(防滑仕上げ)	—	1800	33㎡	
	F☆☆☆☆	アクリル樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	1400	42㎡	18
	F☆☆☆☆	ケイ酸塩系	水性	—	散布型	—	700	72 ~ 120㎡	19
	F☆☆☆☆	特殊ケイ酸塩系	水性	—	散布型	—	950	72 ~ 120㎡	20
	—	エポキシ樹脂	溶剤	艶有り	平滑工法(コーティング仕上げ)	—	㊤3750	42㎡	21
	F☆☆☆☆	弾性ウレタン樹脂	溶剤	艶有り	—	—	—	53㎡ (平滑工法) 50㎡ (NS工法)	9
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	水性	—	—	—	—	60 ~ 80㎡	11
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	弱溶剤	—	—	—	—	75 ~ 100㎡	12
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	—	—	—	—	75 ~ 100㎡	7,8,13
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	—	—	—	—	50 ~ 75㎡	15
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	—	—	—	—	83 ~ 107㎡	21
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	—	—	—	—	80 ~ 106㎡	31
	F☆☆☆☆	特殊合成樹脂	水性	—	—	—	—	75 ~ 100㎡	14,16
	F☆☆☆☆	ウレタン樹脂	溶剤	—	—	—	—	80 ~ 106㎡	9
	F☆☆☆☆	特殊変性樹脂	溶剤	—	—	—	—	97 ~ 117㎡	10
	—	—	—	—	—	—	—	—	31
	—	—	—	—	—	—	—	—	31
	F☆☆☆☆	エポキシ樹脂	溶剤	—	—	—	—	—	32
	—	—	—	—	—	—	—	—	7,8
	—	—	—	—	—	—	—	—	7,8, 10 ~ 17
	—	—	—	—	—	—	—	—	9
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※新築下地で300㎡以上を基準とする材工共の価格です。詳しくは、別途お問い合わせください。(㊤マーク：下塗材込み価格)

エポキシ系の材料は、かぶれなどの皮膚障害を起こすおそれがありますので、使用の際には、手袋、保護衣などの適切な保護具を使用してください。
 特別有機溶剤等は、屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは
 別途、施工仕様書等をご確認ください。

耐薬品性資料

評価：◎ 優れている ○ やや変化あり △ 多少異常あり × 防食材として不適

製 品 薬 品			ア ー キ フ ロ ア ー E H 無 溶 剤	ア ー キ フ ロ ア ー E H 無 溶 剤 用	ア ー キ フ ロ ア ー E H 無 溶 剤 用	S K セ ラ ミ フ ロ ア ー	水 性 速 硬 型 ミ ラ ク フ ロ ア ー	ア ー キ フ ロ ア ー E H マ イ ル ド	ア ー キ フ ロ ア ー E H	水 性 ア ー キ フ ロ ア ー U	ア ー キ フ ロ ア ー U T	ア ー キ フ ロ ア ー A W G	ア ー キ フ ロ ア ー A W	ア ー キ フ ロ ア ー A S	導 電 型 ミ ラ ク フ ロ ア ー
酸 類	塩 酸	10%	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	△
		20%	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	×
	硫 酸	5%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	○	△
		10%	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	△	×	△	×
		20%	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	×	×	△	×
	硝 酸	5%	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	×	△
		10%	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×
		20%	○	○	×	○	◎	×	×	◎	×	×	×	×	×
	磷 酸	10%	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	×	◎	×
		20%	×	×	◎	◎	○	○	○	◎	◎	△	×	◎	×
		30%	×	×	◎	○	○	○	○	◎	◎	×	×	○	×
	酢 酸	5%	△	△	×	○	◎	◎	◎	◎	△	△	○	×	△
		20%	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		30%	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	乳 酸	5%	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	×	△
		20%	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	×	×
		30%	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	△	×	×
	クエン酸	10%	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	×	×	○	×
		20%	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	×	×	○	×
	オレイン酸	飽和	○	○	×	◎	△	○	◎	◎	◎	△	×	◎	×
アル カリ 類	水酸化 ナトリウム	10%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎
		20%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	○	○
		30%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	○	○
	水酸化カリウム	10%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○
	水酸化カルシウム	飽和	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	アンモニア	10%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
		20%	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
塩 類	炭酸バリウム	飽和	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
	塩化カルシウム	飽和	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	塩化マグネシウム	飽和	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	炭酸ナトリウム	飽和	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
有機 溶 剤	メタノール	—	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×
	エタノール	—	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×
	イソプロピルアルコール	—	×	×	×	×	×	×	◎	△	×	×	×	×	×
	フェノール	10%	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	トルエン	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	キシレン	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アセトン	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	メチルイソブチルケトン	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	酢酸エチル	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	四塩化炭素	—	×	×	×	×	△	×	○	×	×	×	×	×	×
消毒 液	過酸化水素水	30%	×	×	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	×	×	×
	次亜塩素酸ナトリウム	1%	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△
生 活 材	ガソリン	—	△	△	×	×	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	△
	灯 油	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	×	◎
	水 道 水	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
	醤 油	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
	ソ ー ス	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
	コ ー ヒ ー	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
	食 酢	—	△	△	△	△	○	◎	◎	◎	△	×	×	×	△

試験条件：23℃、7日間浸漬

環境対応状況一覧

注) 本カタログ製作時における指定物質。

各法令における規制物質 ^{注)}				厚生労働省												その他	
				文部科学省						室内濃度指針値※							
				国土交通省「建築基準法」		学校環境衛生の基準											
種別	製品名	一般名称	区分	ホルムアルデヒド 放散等級	クロル ピリホス	トルエン	キシレン	エチル ベンゼン	パラジクロ ロベンゼン	フタル酸・ジ n-ブチル	テトラデカン	フタル酸・ジ エチルヘキシル	ダイアジン	アセトアル デヒド	フェノール	鉛	TVOC
厚膜型	アーキフロアー EH 無溶剤	無溶剤エポキシ樹脂系塗床材	無溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	1未満	1未満	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	5～10
	アーキフロアー EH 無溶剤ローラー用	無溶剤エポキシ樹脂系塗床材	無溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	1未満	1未満	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	5～10
	アーキフロアー UE	弾性ウレタン樹脂系塗床材	溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	1～5	1～5	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	1～5
薄膜型	SK セラミフロアー	アクリルシリコン樹脂系塗床材	溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	1～5	10～20	10～20	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	40～50
	水性速硬型ミラクフロアー	水性速硬型 エポキシ樹脂系塗床材	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	1～5
	アーキフロアー EH マイルド	弱溶剤形 エポキシ樹脂系塗床材	弱溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	1未満	1未満	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	40～50
	アーキフロアー EH	エポキシ樹脂系塗床材	溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	5～10	10～20	1～5	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	30～40
	水性アーキフロアー U	水性ウレタン樹脂系塗床材	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	5～10
	アーキフロアー UT	ウレタン樹脂系塗床材	溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	10～20	10～20	10～20	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	40～50
	アーキフロアー AWG	水性アクリル樹脂系塗床材	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	1～5
	アーキフロアー AW	水性アクリル樹脂系塗床材 (艶消し)	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	1～5
	アーキフロアー AS	溶剤形アクリル樹脂系塗床材	溶剤	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	30～40	15～25	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	40～50
浸透型	SK バリヤーコート	コンクリート表面強化材	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	0.01未満
	アーキタイトエコ	コンクリート表面強化材	水性	F ☆☆☆☆	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	1未満
導電型	導電型ミラクフロアー	導電型 エポキシ樹脂系塗床材	溶剤	—	配合せず	配合せず	10～20	5～10	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	配合せず	30～40

一覧表の見方

- 各省庁の規制物質について表記しています。
- ホルムアルデヒドは放散等級区分を表示。
- TVOC量は塗料配合中に含有する沸点が260℃以下の揮発性有機化合物の総量です。
- TVOC量や化学物質の配合量は、色目によって異なります。

表中の数値などの意味

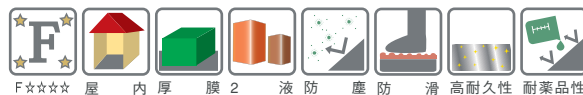
- 配合せず・・・塗料中に配合されていない
- 数値・・・配合量 (%)

※塗料中にはスチレンを配合しておりません。但し、製品によっては使用している樹脂にスチレンが共重合化され、ポリマー化している場合があります。ポリマー化したスチレンは樹脂内に固定化されているため、一般条件下においてスチレンモノマーが揮発することは殆どありません。その他詳しくは、SDSをご参照ください。

標準色一覧

						
No.95	No.93	No.94	No.96	No.91	No.98	No.86
						
No.74	No.76	No.75	No.90	No.88	No.78	No.79
						
No.92	No.82	No.84	No.77	No.87	No.89	

※見本は印刷のため実物と多少異なる場合があります。ご了承ください。
発注の際は、必ず見本帳で色目をご確認ください。



耐薬品高強度無溶剤形エポキシ樹脂系塗床材

アーキフロアーEH無溶剤／EH無溶剤ローラー用



特長

各種の性能を保持するものとして開発された、無溶剤タイプのエポキシ樹脂系塗床材です。作業性に優れ、酸・アルカリに強いエポキシ樹脂を使用しているため、耐薬品性、耐摩耗性を発揮し、光沢のある美しい床面を形成します。姉妹品として、セルフレベリング性に優れたローラー施工専用のアーキフロアーEH無溶剤ローラー用があります。

1. 厚塗りができ、強固で強靱な塗面を形成します。
2. 耐酸性・耐アルカリ性・耐水性・耐薬品性に優れています。
3. 下地への密着性に優れた性能を示します。
4. 掃除がしやすく、衛生的な環境を維持します。
5. 作業性に優れています。

用途

一般工場、機械工場、食品工場、化学工場、実験室、病室、化粧室、倉庫、駐車場（内部）などの床面

性能試験成績表

JIS K 5970Iによる試験結果

項目	結果	品質
容器の中での状態	合格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗装作業性	合格	塗装作業に支障がない。
塗膜の外観	合格	塗膜の外観が正常である。
耐摩耗性	5.3mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐衝撃性	合格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐水性	合格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

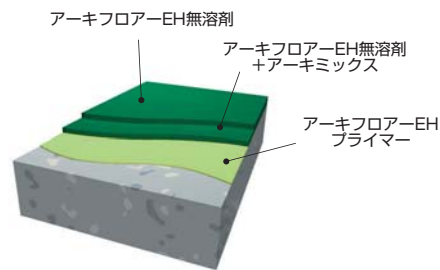
その他の性能

項目	結果	試験方法
引張接着強さ	2.5N/mm	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠 (結果は基材内破断)
表面硬度	3 H	JIS K 5600-5-4 引っかき硬度（鉛筆法）に準拠
吸水率	1%以下	JIS K 6911 5.26 吸水率に準拠
すべり抵抗係数	DRY 138.0 WET 38.0	ASTM E 303 ポータブル・スキッド・レジスタンステスターによる
温冷繰返し	合格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍結融解性	合格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

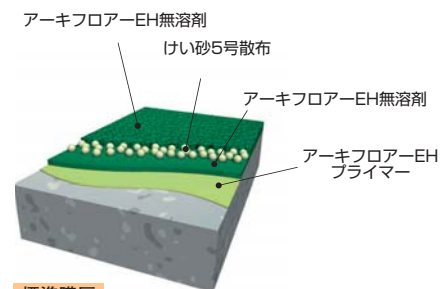
工程図（アーキフロアーEH無溶剤）

平滑工法(薄膜流しのべ仕上げ)



標準膜厚 1.0mm 0.8mm仕様もあります。

NS工法(薄膜流しのべ防滑仕上げ)



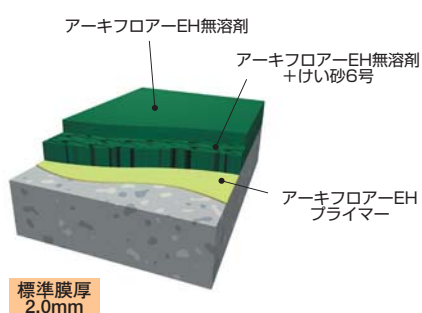
標準膜厚 1.5mm

標準施工仕様について、詳しくは22頁をご参照ください。

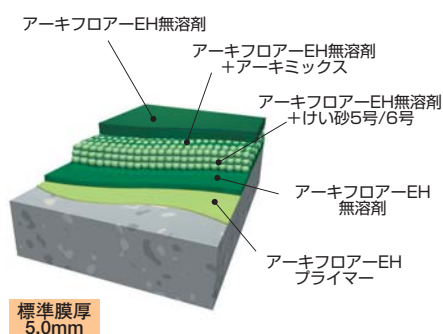


工程図(アーキフロアーEH無溶剤)

ペースト工法(厚膜流しのべ仕上げ)

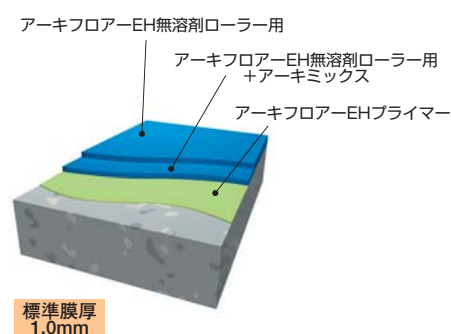


樹脂モルタル工法(樹脂モルタル仕上げ)

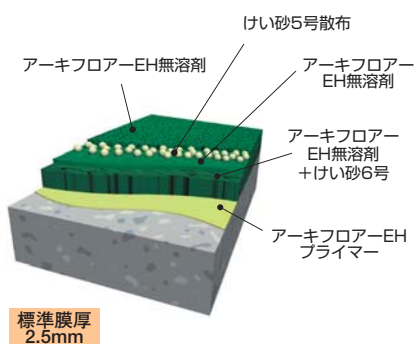


工程図(アーキフロアーEH無溶剤ローラー用)

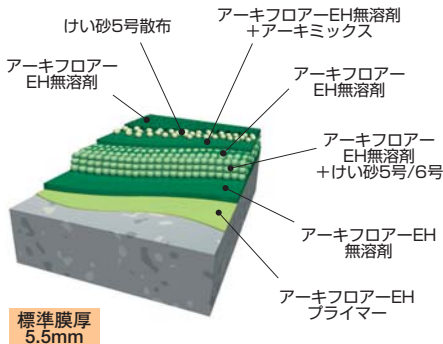
平滑工法(薄膜流しのべ仕上げ)



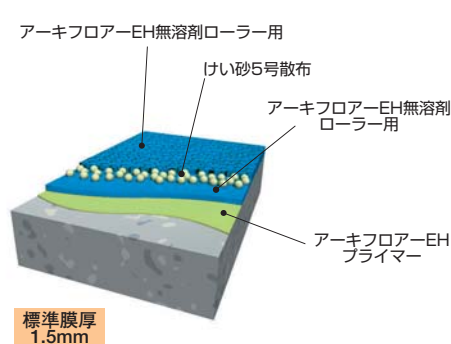
ペーストNS工法(厚膜流しのべ防滑仕上げ)



樹脂モルタルNS工法(樹脂モルタル防滑仕上げ)



NS工法(薄膜流しのべ防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは22頁をご参照ください。

標準施工仕様について、詳しくは23頁をご参照ください。



弾性厚塗りウレタン樹脂系塗床材

アーキフロアーUE



特 長

特殊ウレタン樹脂の応用で開発された二液常温硬化形のウレタン樹脂系塗床材です。ソフトな感触と高度の耐久性を持つ弾性厚塗りタイプです。

1. 2mmの厚塗りが可能です。
2. 色彩と光沢に富み、シームレスに仕上がります。
3. 適度の弾力性があり、ソフトな歩行感、耐スリップ性、防音性に優れています。
4. 耐摩耗性、耐薬品性に優れています。
5. レベリング性が極めて良好であり、複雑な形状の床にも施工できます。

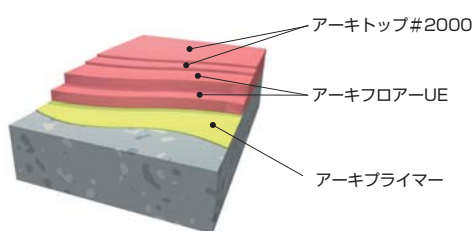


用 途

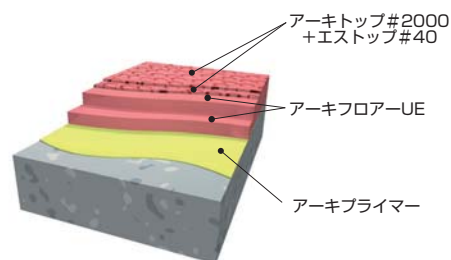
教室、病室、廊下・階段、事務室、レストランなどの歩行の安全性向上、粉塵・騒音防止

工程図

平滑工法(流しのべ仕上げ)

標準膜厚
1.7mm

NS工法(流しのべ防滑仕上げ)

標準膜厚
2.0mm

標準施工仕様について、詳しくは23頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	1.8mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
表 面 硬 度	82	JIS K 6253 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムへ硬さの求め方
引 張 強 さ	10.7N/mm ²	JIS K 6251 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムへ引張特性の求め方
伸 び	324%	JIS K 6251 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムへ引張特性の求め方
引 張 接 着 強 さ	2.5N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

SK CERAMIFLOOR



特殊セラミック変性樹脂系塗床材

SKセラミフロアー



特 長

特殊セラミック変性樹脂をベースにした超耐久性の床材です。熱や光に対しても強い抵抗性を示すため、長期に亘って床面を保護します。

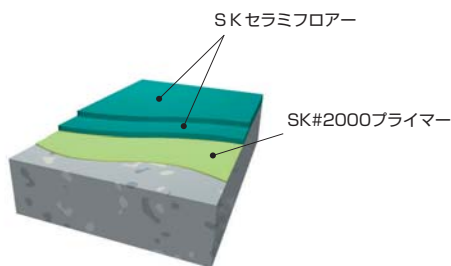
1. 耐酸性・耐アルカリ性・耐薬品性に優れています。
2. 耐摩耗性に優れ、防塵効果があります。
3. 透湿性が高く、従来の塗床材と比べて、浮き・膨れ防止に優れています。

用 途

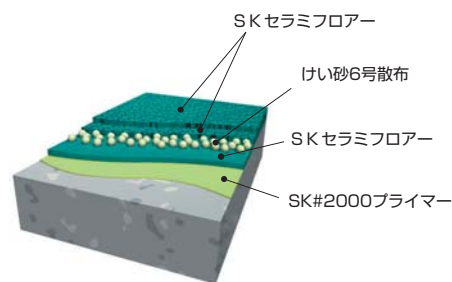
一般工場や機械工場、食品工場、化学工場・倉庫、マンションの廊下・階段、ベランダなど

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは24頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	7.7mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

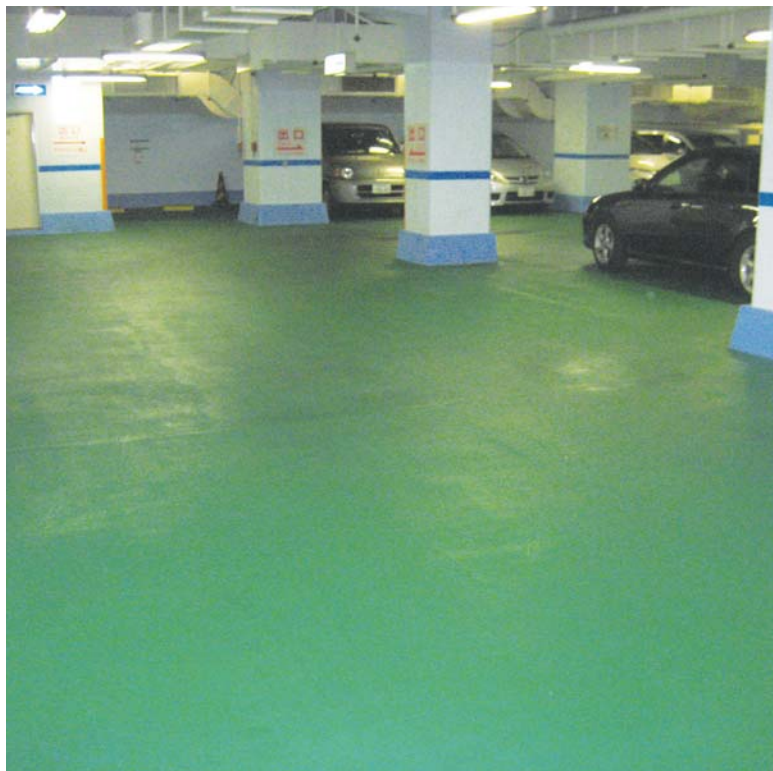
項 目	結 果			試 験 方 法
	SKセラミフロアー	ウレタン系塗床材	エポキシ系塗床材	
光 沢 度	88.0	87.0	86.0	60度鏡面光沢度
表 面 硬 度	3 H	2 H	2 H	JIS K 5600-S-4 引っかかり硬度 (鉛筆法) に準拠
透 湿 性	54g/m ² ・24h	36g/m ² ・24h	12g/m ² ・24h	一方の空気を相対湿度90%、他方の空気を吸湿剤によって乾燥状態に保ったとき、24時間における水蒸気の透過質量

注) 上記試験結果は、養成期間7日間での各物性結果を示します。



水性速硬型エポキシ樹脂系塗床材

水性速硬型ミラクフロアー



特長

水性速硬型ミラクフロアーは水性反応硬化型エポキシ樹脂をベースとした塗床材です。水性でありながら乾燥硬化性に優れています。さらにエポキシ結合を塗膜構造内に持つことにより、溶剤形塗料に匹敵する耐摩耗性・耐薬品性を示し、長期にわたり美しい外観を維持します。また、各種下地への密着性に優れ、高い光沢を示します。

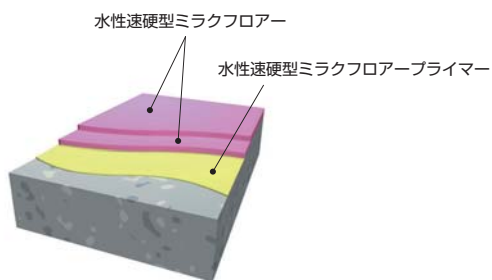


用途

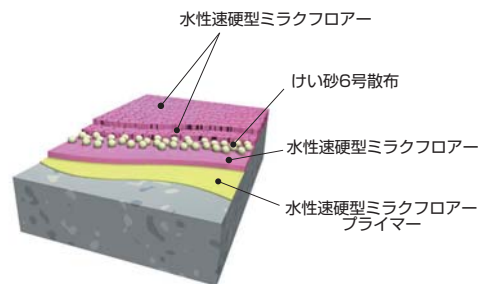
一般工場、機械工場、食品工場、倉庫、教室、実験室、病室、廊下・階段、事務室、化粧室などの床面の作業環境向上や安全、防塵用

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは24頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項目	結果	品質
容器の中での状態	合格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗装作業性	合格	塗装作業に支障がない。
塗膜の外観	合格	塗膜の外観が正常である。
耐摩耗性	4.5mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐衝撃性	合格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐水性	合格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項目	結果	試験方法
付着強さ	2.5N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表面硬度	2H	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度(鉛筆法)に準拠
温冷繰返し	合格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍結融解性	合格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す
耐沸騰水性	合格	沸騰水に30分間浸漬

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

弱溶剤形エポキシ樹脂系塗床材

アーキフロアーEHマイルド



特 長

アーキフロアーEHマイルドは、弱溶剤形のエポキシ樹脂をベースとした塗床材です。独自の反応硬化技術による強靱な塗膜は、耐摩耗性、耐薬品性等に優れた性能を示し、長期にわたり美しい外観と防塵効果を維持します。また、従来の強溶剤形塗床材に比べ、弱溶剤形のため、塗り替えでは旧塗膜を侵すことなく幅広く施工できます。

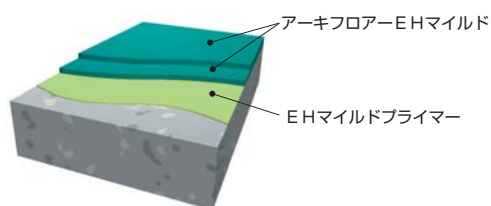


用 途

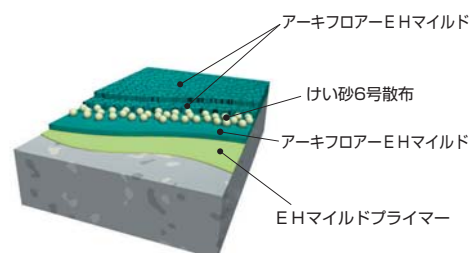
一般工場、機械工場、食品工場、倉庫、実験室、廊下、内階段などの床面

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは25頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	4.0mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

耐薬品高強度エポキシ樹脂系塗床材

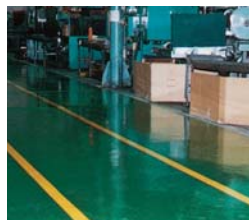
アーキフロアーEH



特 長

下地との密着性及び硬化性に優れた特殊エポキシ樹脂を応用して開発された、強靱で高い耐久性を持つハードタイプのエポキシ樹脂系塗床材です。

1. 硬度の高い塗膜が得られ、優れた耐摩耗性と機械的強度を示します。
2. 耐薬品性、耐油性に優れており、過酷な条件下でも変わらない性能を示します。
3. 光沢があり、耐汚染性に優れ、カラフルな色調を長期間保持します。
4. レベリング性に優れます。

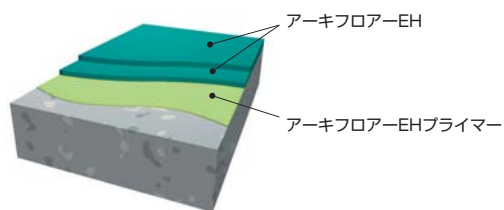


用 途

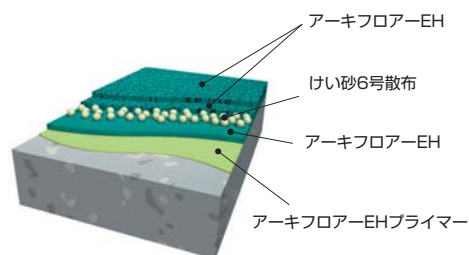
一般工場、機械工場、食品工場、倉庫、教室、実験室、病室、廊下・階段、事務室、化粧室などの床面の作業環境向上や安全、防塵用

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは25頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	3.8mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
引 張 接 着 強 さ	2.5N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠(結果は基材内破断)
表 面 硬 度	2 H	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度(鉛筆法)に準拠
吸 水 性	1%以下	JIS K 6911 5.26 吸水率に準拠
すべり抵抗係数	DRY 119.7 WET 42.0	ASTM E 303 ポータブル・スキッド・レジスタンスステスターによる
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

水性ウレタン樹脂系塗床材

水性アーキフロアーU



特 長

耐候性に優れた水性反応硬化形ウレタン樹脂をベースとした環境にやさしい塗床材です。独自の架橋構造による強靱な塗膜は、優れた耐摩耗性、耐薬品性と共に、高い耐候性を示し、紫外線による劣化、変退色を抑えるため、屋内の床面に限らず屋外にも使用できます。

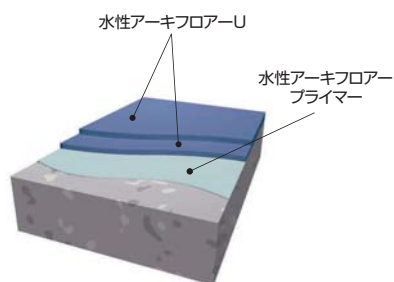
1. 従来のアクリル系、エポキシ系塗床材と比べ、耐変退色性(黄変)に優れています。
2. 独自の反応硬化技術による架橋塗膜は、溶剤形塗料に匹敵する耐摩耗性、耐薬品性を発揮します。
3. 各種旧塗膜(アクリル、ウレタン、エポキシ系)と良好な付着性を示します。
4. 乾燥硬化性に優れ、工期の短縮につながります。
5. 水性塗装システムのため、使いやすく、安全性の高い塗装環境を提供します。

用 途

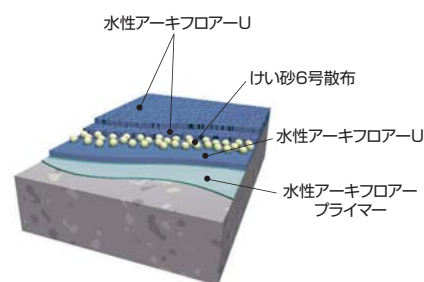
一般工場、倉庫、廊下・階段、遊歩道(密粒アスファルト以外は施工不可)など

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは26頁をご参照ください。

性能試験成績表

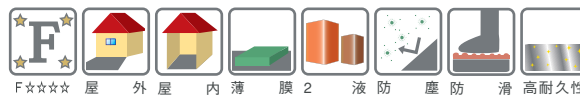
JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	4.0mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

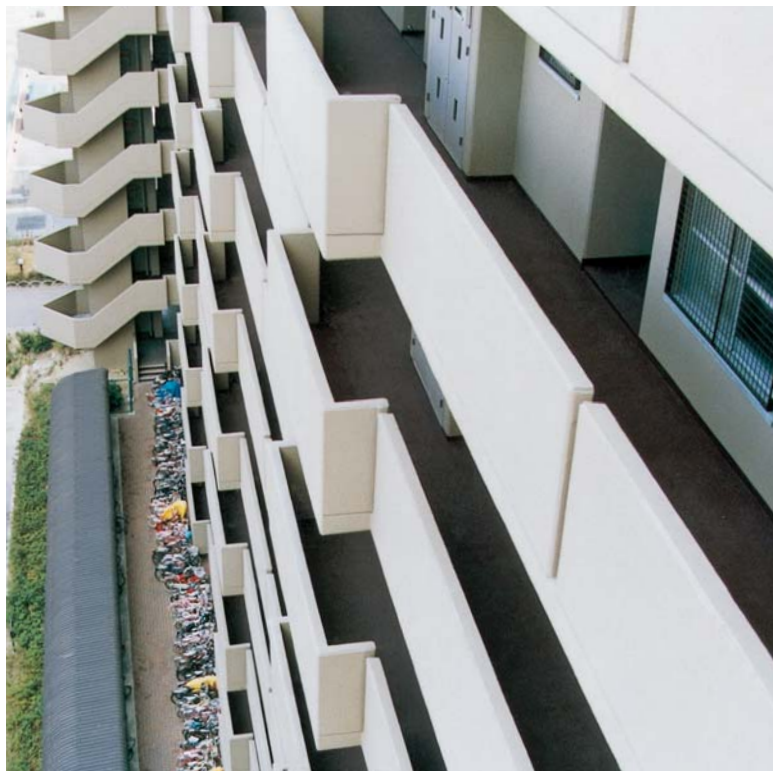
項 目	結 果	試 験 方 法
付 着 強 さ	2.5N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 硬 度	H	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度(鉛筆法)に準拠
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰返す
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰返す
耐 沸 騰 水 性	合 格	沸騰水に30分間浸漬

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。



防塵用ウレタン樹脂系塗床材

アーキフロアーUT



特 長

アクリルウレタン樹脂で構成される二液溶剤形の塗床材です。

1. 無黄変型のアクリルウレタン樹脂で構成されているため、色の安定性、耐候性に優れています。
2. 耐摩耗性に富み、塗膜として耐久性に優れています。
3. 耐汚染性、耐油性に優れています。

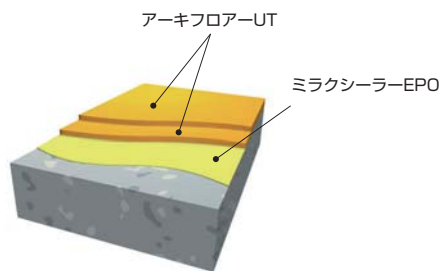


用 途

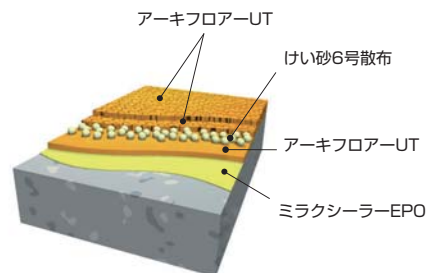
一般工場、駐車場、廊下・階段、ベランダ、プールサイド、実験室など

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは26頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	4.0mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
付 着 強 さ	2.5N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 硬 度	H	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度(鉛筆法)に準拠
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す
耐 沸 騰 水 性	合 格	沸騰水に30分間浸漬

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

ARKIFLOOR



水性反応硬化形アクリル樹脂系塗床材

アーキフロアー-AWG



特 長

反応硬化形の水性特殊アクリル樹脂系塗床材で、従来の溶剤形アクリル樹脂系塗床材に匹敵する物性を発揮し、高い光沢性、優れた耐久性を長期にわたり維持します。また、水性タイプのため、塗装中の溶剤中毒や火災の危険性がなく、塗り替えに最適の塗床材です。

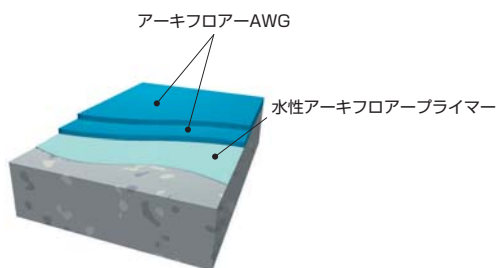
1. 従来の水性アクリル樹脂系塗床材と比較して速硬化性に優れ、翌日歩行が可能（23℃）です。
2. 各種旧塗膜に対して優れた密着性を示します。
3. 架橋塗膜構造を持つため、汚れが内部に浸透しにくく、汚染除去性に優れています。

用 途

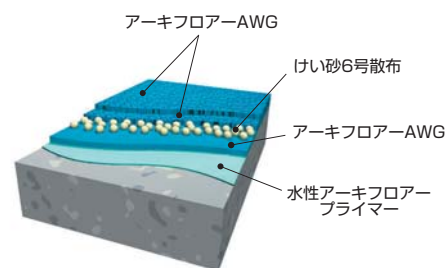
一般工場、倉庫、廊下・階段、遊歩道（駐車場など荷重のかかる部位へは不向き）

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは27頁をご参照ください。

性能試験成績表

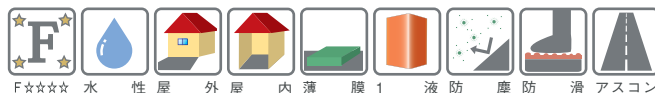
JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	8.0mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
付 着 強 さ	1.3N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 硬 度	2B	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度（鉛筆法）に準拠
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す
耐 沸 騰 水 性	合 格	沸騰水に30分間浸漬

注）上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。



水性アクリル樹脂系塗床材（艶消し）

アーキフロアー-AW



特 長

特殊アクリル樹脂の応用で開発されたエマルジョン系の塗床材です。水性タイプですので引火や爆発の心配もなく、また臭気も柔らかく安全で手軽に施工できます。防塵性に優れた平滑工法と、NS工法があり、カラフルな床面を保持できます。

1. 水性ですので、取り扱いが容易です。
2. 調色が自在で、カラフルに仕上がります。
3. 防塵性、リコート性に優れています。
4. シームレスに美しく仕上がり、清掃が容易です。

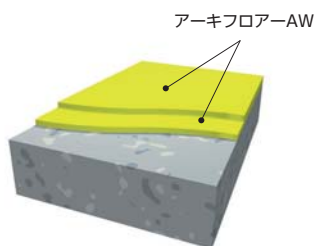


用 途

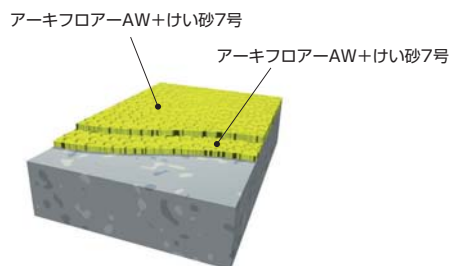
遊歩道などの簡易塗装（駐車場など荷重のかかる部位へは不向き）ベランダ、テニスコート、一般工場

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



NS工法(防滑仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは27頁をご参照ください。

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	9.5mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
付 着 強 さ	1.2N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 硬 度	HB~F	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度（鉛筆法）に準拠
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返す
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返す
耐 沸 騰 水 性	合 格	沸騰水に30分間浸漬

注）上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

溶剤形アクリル樹脂系塗床材

アーキフロアーAS



特 長

特殊アクリル樹脂の応用で開発されたもので、乾燥が速く、手軽に刷毛またはローラーで施工でき、経済的で美しい床面が得られる溶剤形アクリル樹脂系塗床材です。

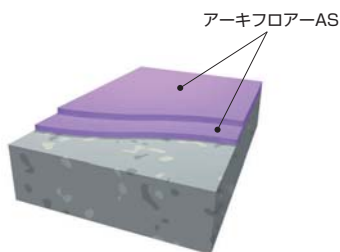
1. 光沢性、耐久性に優れています。
2. 調色が自在で、カラフルに仕上がります。
3. 防塵性、リコート性に優れています。
4. 乾燥が速く、工期の短縮が可能です。

用 途

廊下・階段、一般工場、倉庫(台車、手押し車用)など
(フォークリフトなど、荷重のかかる通路へは不向き)

工程図

平滑工法(コーティング仕上げ)



標準施工仕様について、詳しくは28頁をご参照ください。



性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

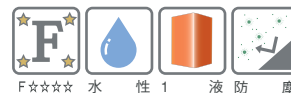
項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	10.0mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
付 着 強 さ	2.0N/mm ²	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 硬 度	HB	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度(鉛筆法)に準拠
温 冷 繰 返 し	合 格	JIS A 6909 7.11 温冷繰返し試験に準拠 水に18時間浸漬した後、-20℃3時間、50℃3時間を1サイクルとして、10サイクル繰り返し
凍 結 融 解 性	合 格	-20℃16時間、20℃8時間を1サイクルとして、30サイクル繰り返し
耐 沸 騰 水 性	合 格	沸騰水に30分間浸漬

注) 上記試験結果は、養生期間7日間での各物性結果を示します。

SK BARRIERCOAT



浸透硬化型コンクリート表面強化材

SKバリヤーコート



特長

特殊けい酸塩を主成分とする浸透硬化型コンクリート表面強化材です。内部に浸透し、床表面を強く緻密に改質することで粉塵の発生を抑制します。

1. 化学反応で改質された表面は、摩耗、劣化による粉塵の発生を抑制します。
2. 経年劣化したコンクリートに対しても、簡単な施工で効果が得られ、リフォーム時の床改修にも最適です。
3. 完全水性で臭いもなく、取り扱いも簡単です。

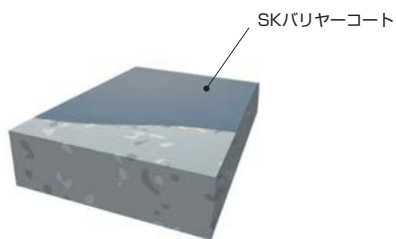
用途

コンクリート床の工場・倉庫・物流施設・駐車場、セメント系硬質床材（カラコン、フェロコン）の改修、OAフロア（二重床下地）の防塵

但し、薬品工場（酸、アルカリなどの薬品が流れるところ）、食品工場・食堂の厨房（酢、塩、砂糖などが流れるところ）、魚介類の解凍場（海水が流れるところ）、防水を要求される場所などには適用できません。

工程図

散布型

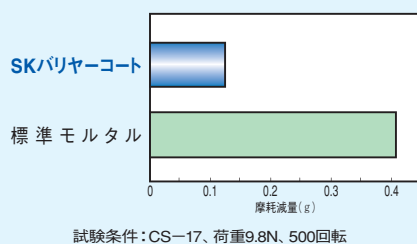


標準施工仕様について、詳しくは28頁をご参照ください。



性能・他

■耐摩耗性試験



SKバリヤーコート散布

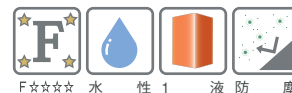


モップによる水拭き



仕上がり

ARKITIGHT ECO



水性ハイソリッド型コンクリート表面強化材

アーキタイトエコ



特長

コンクリートやモルタルなどの床表面に塗付することで素地内部の細部深くまで浸透し、硬く緻密な表面に改質します。また、ハイソリッド型であるため、一度塗りで耐摩耗性、耐久性の高い床面を提供します。

1. 特殊珪酸 (Si-O) 化合物がコンクリートに深く浸透し、コンクリートやモルタル成分と反応して、緻密で強固な表面に改質します。
2. コンクリートとの化学反応で改質された表面は、摩耗、劣化による粉塵の発生を抑制します。
3. 緻密な表面層は、汚れ成分の付着、浸透、固着を抑制し、優れた耐汚染性を付与します。
4. 緻密な表面層は、コンクリートやモルタルの中性化防止に大きく貢献します。
5. 完全水系で臭いもなく、ホルムアルデヒドなどの有害物質を含まない安全設計です。

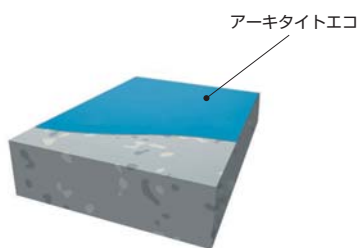
用途

工場、倉庫、物流センター、駐車場などのコンクリート床面

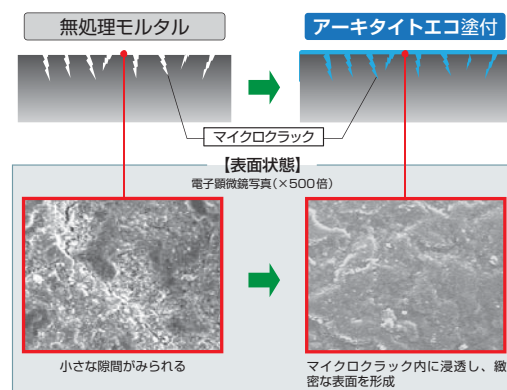
但し、薬品工場(酸、アルカリなどの薬品が流れるところ)、食品工場・食堂の厨房(酢、塩、砂糖などが流れるところ)、魚介類の解凍場(海水が流れるところ)、防水を要求される場所などには適用できません。

工程図

散布型

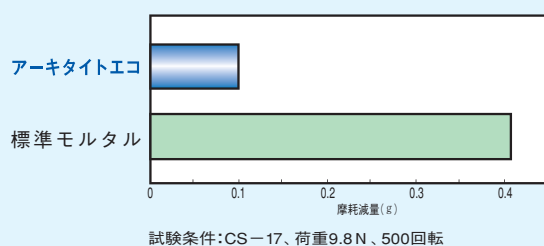


標準施工仕様について、詳しくは28頁をご参照ください。



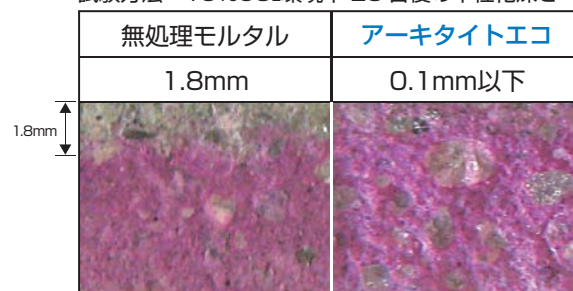
性能

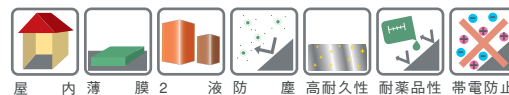
■耐摩耗性試験



■中性化試験

試験方法: 10%CO₂環境下 28日後の中性化深さ





導電型塗床材

導電型ミラクフロアー



特 長

エレクトロニクスの発達に伴い、ほこりや塵、あるいは静電気を嫌う施設が増えてきました。また危険物を取り扱う工場などは、静電気が爆発・火災につながるものとしてクローズアップされています。導電型ミラクフロアーは床や人体の帯電をスピーディーに解消する、今までにない塗床材です。

※改装の場合、旧塗膜の有無により導電効果を発揮しないことがあります。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。



用 途

精密工場、電算室、実験室、病室などの床面

性能試験成績表

JIS K 5970による試験結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様である。
塗 装 作 業 性	合 格	塗装作業に支障がない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常である。
耐 摩 耗 性	3.9mg	規定回転数当たりの摩耗減量30mg以下。
耐 衝 撃 性	合 格	衝撃による変形で割れ、はがれが生じない。
耐 水 性	合 格	6時間水に浸したとき異常がない。
耐 アルカリ性 (水酸化カルシウム飽和溶液)	合 格	6時間アルカリに浸したとき異常がない。

その他の性能

項 目	結 果	試 験 方 法
表 面 硬 度	2 H	JIS K 5600-5-4 引っかかり硬度（鉛筆法）に準拠
付 着 強 さ	2.5N/mm	JIS A 5536 ビニル床タイル・ビニル床シート用接着剤に準拠
表 面 抵 抗 値	$5 \times 10^4 \sim 10^5 \Omega$	NFPA法（米国防火協会法）に準拠 もしくは、JIS K 6911
漏 洩 抵 抗 値	$5 \times 10^2 \sim 10^3 \Omega$	労働省安全研究所 静電気安全指針1988年

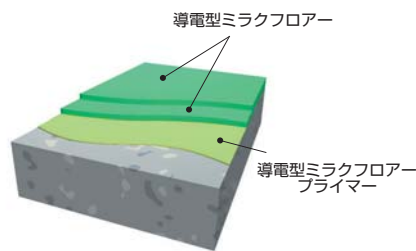
●表面抵抗値の測定
電極：直径6cm、重量2kg
印加電圧：500V
測定：塗膜表面に91.4cm離れた電極を設置し表面抵抗を測定する（NFPA法準拠）

【参考】漏洩抵抗値（静電気安全指針1988より）

作 業 環 境	漏洩抵抗	備 考
爆発・火災が発生するおそれのある場所	$10^7 \Omega$ 以下	水素、アセチレンなどのように最小着火エネルギーが0.1mJ未満の可燃性物質を取り扱う工程
	$10^8 \Omega$ 以下	炭化水素系液体、粉体のように最小着火エネルギーが0.1mJ以上の可燃性物質を取り扱う工程
電撃が発生するおそれのある場所	$10^9 \Omega$ 以下	粉体の袋詰め、紙、フィルムの巻取り等工程
生産障害等が発生するおそれのある場所	$10^7 \Omega$ 以下	半導体を取り扱う工程
	$10^8 \Omega$ 以下	品質不良、製品の汚れ等が問題となる工程

工程図

平滑工法（コーティング仕上げ）



標準施工仕様について、詳しくは28頁をご参照ください。

標準施工仕様

※仕様、及び施工上の注意点については、個別の施工仕様書をご確認ください。

アーキフロアーEH無溶剤

平滑工法（薄膜流しのべ仕上げ） 1.0mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計・クット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(p H試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4以上	4以上	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25	~ 0.20					
下 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.3	1	—	10以上	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
	アーキミックス	3~6						
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	1.0	1	—	—	24以上	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						

本仕様は1.0mm厚仕様です。0.8mm厚仕様もあります。その場合の上塗りの塗付け量は0.8kg/m²となります。

NS工法（薄膜流しのべ防滑仕上げ） 1.5mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計・クット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(p H試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4以上	4以上	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25	~ 0.20					
下 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.5	1	—	15分以内	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
けい砂散	け い 砂 5 号	—	1.0	1	—	10以上	—	手散布 又は吹付
余剰けい砂の除去	—	—	—	—	—	直後	—	余剰のけい砂をホウキで除去する。
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.5	1	—	—	24以上	EHローラー
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						

ペースト工法（厚膜流しのべ仕上げ） 2.0mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計・クット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(p H試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4以上	4以上	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25	~ 0.20					
ペースト塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	2.5	1	—	10以上	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
	け い 砂 6 号	80~100						
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.8	1	—	—	24以上	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						

ペーストNS工法（厚膜流しのべ防滑仕上げ） 2.5mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計・クット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(p H試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4以上	4以上	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25	~ 0.20					
ペースト塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	2.5	1	—	10以上	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
	け い 砂 6 号	80~100						
中 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.5	1	—	15分以内	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
けい砂散	け い 砂 5 号	—	1.0	1	—	10以上	—	手散布 又は吹付
余剰けい砂の除去	—	—	—	—	—	直後	—	余剰のけい砂をホウキで除去する。
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.5	1	—	—	24以上	EHローラー
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						

樹脂モルタル工法（樹脂モルタル仕上げ） 5.0mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計・クット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(p H試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4以上	4以上	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25	~ 0.20					
下 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.3	1	—	直後	—	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						
	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100						
樹脂モルタル塗り	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20	8.0	1	—	10以上	—	金こて
	け い 砂 5 号 / 6 号	480/120						
	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100						
目 止 め	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20	0.5	1	—	10以上	—	金こて
	アーキミックス	3~6						
	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100						
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤 主 剤	100	0.8	1	—	—	24以上	金こて
	アーキフロアーEH無溶剤 硬化剤	20						

1. 吸い込みが多い下地の場合など、必要に応じてアーキフロアーEHプライマーを2回塗りしてください。
 2. 攪拌は泡がまなないよう注意して行ってください。低速型攪拌機の使用を推奨します。
- ※アーキフロアーEH無溶剤は、希釈すると硬化不良を生じる可能性がありますので、絶対に希釈は行わないでください。

荷 姿

★アーキフロアーEHプライマー

★アーキフロアーEH無溶剤

主剤：12kg石油缶、4kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：75~100m²/15kgセット）

主剤：15kg石油缶、5kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶

（標準塗坪：平滑工法13.8m²/18kgセット、NS工法18m²/18kgセット、ペースト工法8m²/18kgセット、

ペーストNS工法7.4m²/18kgセット、樹脂モルタル工法6.1m²/18kgセット、樹脂モルタルNS工法5.7m²/18kgセット）

けい砂5号
けい砂6号
アーキミックス

30kg袋
30kg袋
3kg袋

アーキフロアーEH無溶剤ローラー用

平滑工法（薄膜流しのべ仕上げ） 1.0mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤 アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	100 25	0.15 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
下 塗り	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 主 剤	100						
	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 硬化剤	20	0.3	1	—	10 以上	—	EHローラー
	ア ー キ ミ ッ ク ス	3~6						
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 主 剤	100						
	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 硬化剤	20	1.0	1	—	24 以上	—	EHローラー

1. 吸い込みが多い下地の場合など、必要に応じてアーキフロアーEHプライマーを2回塗りしてください。
2. アーキミックスの添加量は、下地の状況に応じて、適宜設定してください。
※アーキフロアーEH無溶剤ローラー用は、希釈すると硬化不良を生じる可能性がありますので、絶対に希釈は行わないでください。

荷 姿

- ★アーキフロアーEHプライマー 主剤：12kg石油缶、4kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：75~100㎡/15kgセット）
- ★アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 主剤：15kg石油缶、5kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：平滑工法13.8㎡/18kgセット、NS工法18㎡/18kgセット）
けい砂5号 30kg袋
アーキミックス 3kg袋

NS工法（薄膜流しのべ防滑仕上げ） 1.5mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
プライマー塗り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤 アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	100 25	0.15 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
下 塗り	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 主 剤	100						
	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 硬化剤	20	0.5	1	—	15分 以内	—	EHローラー
けい砂散布	け い 砂 5 号	—	1.0	1	—	10 以上	—	手散布 又は吹付
余剰けい砂の除去	—	—	—	—	—	直後	—	余剰のけい砂をホウキで除去する。
上 塗り	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 主 剤	100						
	アーキフロアーEH無溶剤ローラー用 硬化剤	20	0.5	1	—	24 以上	—	EHローラー



EHローラー

アーキフロアーUE

平滑工法（流しのべ仕上げ） 1.7mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗り	ア ー キ フ ロ ア ー U E	既調合	0.15 0.25	1~2	3~6	3~6	—	ローラー 刷 毛
中 塗り	アーキフロアーUE 主 剤	100						
	アーキフロアーUE 硬化剤	80	2.0	2	8~16	8~16	—	こ へ ー
上 塗り	アーキトップ#2000 主 剤	100						
	アーキトップ#2000 硬化剤	25	0.28					
	ア ー キ U シ ン ナ ー	30~50	—	2	4~24	—	24 以上	ローラー 刷 毛

1. 直射日光の当たる床面に使用する場合は、上塗材としてアーキトップ#2000を塗付してください。

NS工法（流しのべ防滑仕上げ） 2.0mm厚 (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗り	ア ー キ フ ロ ア ー U E	既調合	0.15 0.25	1~2	3~6	3~6	—	ローラー 刷 毛
中 塗り	アーキフロアーUE 主 剤	100						
	アーキフロアーUE 硬化剤	80	2.0	2	8~16	8~16	—	こ へ ー
上 塗り	アーキトップ#2000 主 剤	100						
	アーキトップ#2000 硬化剤	25	0.3					
	エ ス ト ッ プ # 4 0	1~2						
	ア ー キ U シ ン ナ ー	30~50	—	2	4~24	—	24 以上	ローラー

荷 姿

- ★アーキプライマー 16 kg石油缶（標準塗坪：80~106㎡/16kg缶）
- ★アーキフロアーUE 主剤：10kgベール缶 硬化剤：8kg石油缶（標準塗坪：平滑工法9㎡/セット、NS工法9㎡/セット）
- ★アーキトップ#2000 主剤：12kg石油缶、4kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：平滑工法 53㎡/15kgセット、NS工法 50㎡/15kgセット）
エストッブ#40 12kg袋
- ★アーキUシンナー 16ℓ石油缶

SKセラミフロアー

平滑工法（コーティング仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	SK#2000プライマー 主 剤	100	0.14	1	—	16以上 7日以内	—	ローラー 刷 毛
	SK#2000プライマー 硬化剤	10	~0.17					
	SK#2000プライマーシンナー	10~40	—					
上 塗 り	SKセラミフロアー 主 剤	100	0.28	2	1以上 7日以内	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	SKセラミフロアー 硬化剤	7.14						
	SKセラミフロアーシンナー	0~10	—					

NS工法（防滑仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	SK#2000プライマー 主 剤	100	0.14	1	—	16以上 7日以内	—	ローラー 刷 毛
	SK#2000プライマー 硬化剤	10	~0.17					
	SK#2000プライマーシンナー	10~40	—					
中 塗 り	SKセラミフロアー 主 剤	100	0.16	1	—	10分 以内	—	ローラー 刷 毛
	SKセラミフロアー 硬化剤	7.14						
	SKセラミフロアーシンナー	0~10	—					
けい砂散	け い 砂 6 号	—	0.25	1	—	8 以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	SKセラミフロアー 主 剤	100	0.22	2	1以上 7日以内	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	SKセラミフロアー 硬化剤	7.14						
	SKセラミフロアーシンナー	0~10	—					

荷 姿

- ★SK#2000プライマー 主剤：15kg石油缶、5kg缶 硬化剤：1.5kg缶、0.5kg缶（標準塗坪：97~117㎡/16.5kgセット）
- ★SKセラミフロアー 主剤：14kg石油缶、3.5kg缶 硬化剤：1kg缶、0.25kg缶（標準塗坪：平滑工法53㎡/15kgセット、NS工法39㎡/15kgセット）
- ★SK#2000プライマーシンナー 16ℓ石油缶
- ★SKセラミフロアーシンナー 16ℓ石油缶
- けい砂6号 30kg袋

水性速硬型ミラクフロアー

平滑工法（コーティング仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	水性速硬型ミラクフロアープライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
	水性速硬型ミラクフロアープライマー 硬化剤	50	0.25					
上 塗 り	水性速硬型ミラクフロアー 主 剤	100	0.30	2	4~24	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	水性速硬型ミラクフロアー 硬化剤	25						
	清 水	0~10	—					

1. 吸い込みが多い下地の場合、必要に応じて水性速硬型ミラクフロアープライマーを2回塗りしてください。

NS工法（防滑仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	水性速硬型ミラクフロアープライマー 主 剤	100	0.15	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
	水性速硬型ミラクフロアープライマー 硬化剤	50	0.25					
中 塗 り	水性速硬型ミラクフロアー 主 剤	100	0.15	1	—	10分 以内	—	ローラー 刷 毛
	水性速硬型ミラクフロアー 硬化剤	25						
	清 水	0~10	—					
けい砂散	け い 砂 6 号	—	0.25	1	—	8 以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	水性速硬型ミラクフロアー 主 剤	100	0.30	2	4~24	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	水性速硬型ミラクフロアー 硬化剤	25						
	清 水	0~10	—					

荷 姿

- 水性速硬型ミラクフロアープライマー 主剤：8kg石油缶 硬化剤：4kg缶（標準塗坪：60~80㎡/セット）
- 水性速硬型ミラクフロアー 主剤：12kg石油缶 硬化剤：3kg缶（標準塗坪：平滑工法50㎡/セット、NS工法33㎡/セット）
- けい砂6号 30kg袋

アーキフロアーEHマイルド

平滑工法（コーティング仕上げ）

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	EHマイルドプライマー 主 剤	100	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	6 以上	—	ローラー 刷 毛
上 塗 り	EHマイルドプライマー 硬化剤	25						
	アーキフロアーEHマイルド 主 剤	100	0.35	2	8 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHマイルド 硬化剤	25						
	塗 料 用 シ ン ナ ー A	0~10	—					

1. 吸い込みが多い下地の場合など、必要に応じてEHマイルドプライマーを2回塗りしてください。

荷 姿

- ★EHマイルドプライマー 主剤：12kg石油缶 硬化剤：3kg缶（標準塗坪：75~100㎡/15kgセット）
- ★アーキフロアーEHマイルド 主剤：12kg石油缶 硬化剤：3kg缶（標準塗坪：平滑工法42㎡/15kgセット、NS工法27㎡/15kgセット）
- ★塗料用シンナーA 16ℓ 石油缶 30kg袋
- けい砂6号

NS工法（防滑仕上げ）

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	EHマイルドプライマー 主 剤	100	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	6 以上	—	ローラー 刷 毛
中 塗 り	EHマイルドプライマー 硬化剤	25						
	アーキフロアーEHマイルド 主 剤	100	0.20	1	—	15分 以内	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHマイルド 硬化剤	25						
	塗 料 用 シ ン ナ ー A	0~10	—					
けい砂 散 布	け い 砂 6 号	—	0.3	1	—	8 以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	アーキフロアーEHマイルド 主 剤	100	0.35	2	8 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEHマイルド 硬化剤	25						
	塗 料 用 シ ン ナ ー A	0~10	—					

アーキフロアーEH

平滑工法（コーティング仕上げ）

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
上 塗 り	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25						
	アーキフロアーEH 主 剤	100	0.35	2	8 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEH 硬化剤	25						
	E H シ ン ナ ー	5~10	—					

1. 吸い込みが多い下地の場合など、必要に応じてアーキフロアーEHプライマーを2回塗りしてください。

荷 姿

- ★アーキフロアーEHプライマー 主剤：12kg石油缶、4kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：75~100㎡/15kgセット）
- ★アーキフロアーEH 主剤：12kg石油缶、4kg缶 硬化剤：3kg缶、1kg缶（標準塗坪：平滑工法42㎡/15kgセット、NS工法25㎡/15kgセット）
- ★EHシンナー 16ℓ 石油缶 30kg袋
- けい砂6号

NS工法（防滑仕上げ）

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	アーキフロアーEHプライマー 主 剤	100	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
中 塗 り	アーキフロアーEHプライマー 硬化剤	25						
	アーキフロアーEH 主 剤	100	0.20	1	—	15分 以内	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEH 硬化剤	25						
	E H シ ン ナ ー	5~10	—					
けい砂 散 布	け い 砂 6 号	—	0.3	1	—	8 以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	アーキフロアーEH 主 剤	100	0.40	2	8 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーEH 硬化剤	25						
	E H シ ン ナ ー	5~10	—					

水性アーキフロアーU

平滑工法（コーティング仕上げ） (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	水性アーキフロアープライマー	既調合	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
上 塗 り	水性アーキフロアーU 主 剤	100	0.30	2	4~48	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	水性アーキフロアーU 硬化剤	10						
	清 水	0~10	—					

- 吸い込みが多い下地の場合は、必要に応じて2回塗りしてください。また水性アーキフロアープライマー塗装後、テープング試験で付着性の確認を行うことを推奨します。
- アスファルト面に施工する際には、水性アーキフロアープライマーを使用せず、水性アーキフロアーUを直接塗装してください。その際には、必ず試し塗りを行ってください。なお、下の吸い込みが著しい場合には、水性速硬型ミラクフロアープライマーを塗装後、水性アーキフロアーUの塗装を行ってください。アスファルト面では、水性アーキフロアーUの塗付け量(2回塗り時)は「1.0~1.4kg/m²」、清水での希釈率は刷毛、ローラー塗り時で「10~15%」となります。
- アスファルト面では、アスファルトのにじみにより変色する場合があります。特に淡彩色系の色目を塗装される際には、試験塗りを実施してください。特に舗装して間もないアスファルト面には、油分が表面に染み出てこなくなるまで塗装は避けてください。 (目安: 舗装後3週間以上 (標準状態))

荷 姿

水性アーキフロアープライマー 15kg石油缶 (標準塗坪: 75~100m²/缶)
水性アーキフロアーU 主剤: 15kg石油缶、4kg缶 硬化剤: 1.5kg缶、0.4kg缶 (標準塗坪: 平滑工法55m²/16.5kgセット、NS工法34m²/16.5kgセット)
けい砂6号 30kg袋

NS工法（防滑仕上げ） (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	水性アーキフロアープライマー	既調合	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
中 塗 り	水性アーキフロアーU 主 剤	100	0.18	1	—	10分 以内	—	ローラー 刷 毛
	水性アーキフロアーU 硬化剤	10						
	清 水	0~10	—					
けい砂散	け い 砂 6 号	—	0.25	1	—	8以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	水性アーキフロアーU 主 剤	100	0.30	2	4~48	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	水性アーキフロアーU 硬化剤	10						
	清 水	0~10	—					

- 旧塗膜の改修には水性アーキフロアープライマーを使用せず、水性アーキフロアーUを直接塗装、あるいは、水性速硬型ミラクフロアープライマーを使用してください。

アーキフロアーUT

平滑工法（コーティング仕上げ） (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	ミラクシーラーEPO 主 剤	100	0.20 ~ 0.30	1	—	4~24	—	ローラー 刷 毛
	ミラクシーラーEPO 硬化剤	50						
上 塗 り	アーキフロアーUT 主 剤	100	0.35	2	4~16	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーUT 硬化剤	25						
	ア ー キ U シ ン ナ ー	20~40	—					

荷 姿

★ミラクシーラーEPO 主剤: 10kg石油缶 硬化剤: 5kg缶 (標準塗坪: 50~75m²/セット)
★アーキフロアーUT 主剤: 12kg石油缶、4kg缶 硬化剤: 3kg缶、1kg缶 (標準塗坪: 平滑工法42m²/15kgセット、NS工法28m²/15kgセット)
★アーキUシンナー 16ℓ石油缶
けい砂6号 30kg袋

NS工法（防滑仕上げ） (23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	ミラクシーラーEPO 主 剤	100	0.20 ~ 0.30	1	—	4~24	—	ローラー 刷 毛
	ミラクシーラーEPO 硬化剤	50						
中 塗 り	アーキフロアーUT 主 剤	100	0.18	1	—	10分 以内	—	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーUT 硬化剤	25						
	ア ー キ U シ ン ナ ー	20~40	—					
けい砂散	け い 砂 6 号	—	0.25	1	—	8 以上	—	手散布 又は吹付
上 塗 り	アーキフロアーUT 主 剤	100	0.35	2	4~16	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	アーキフロアーUT 硬化剤	25						
	ア ー キ U シ ン ナ ー	20~40	—					

アーキフロアーAWG

平滑工法（コーティング仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/㎡)	塗回数	乾燥時間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—	
	下 塗 り	水性アーキフロアープライマー	既調合	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
上 塗 り	ア ー キ フ ロ ア ー A W G	100	0.30	2	3 以上	—	24 以上	—	ローラー 刷 毛
	清 水	0~10	—						

- 吸い込みが多い下地の場合は、必要に応じて2回塗りしてください。また水性アーキフロアープライマー塗装後、テーピング試験で付着性の確認を行うことを推奨します。
- アスファルト面に施工する際には、水性アーキフロアープライマーを使用せず、アーキフロアーAWGを直接塗装してください。その際には、必ず試し塗りを行ってください。なお、下地の吸い込みが著しい場合には、水性速硬型ミラフロアープライマーを塗装後、アーキフロアーAWGの塗装を行ってください。アスファルト面ではアーキフロアーAWGの塗付け量(2回塗り時)は「1.0~1.4kg/m²」、清水での希釈率は刷毛・ローラー塗り時で「10~15%」となります。
- アスファルト面では、アスファルトのにじみにより変色する場合があります。特に白色、淡彩色系の色相を塗装される際には、試験塗りを実施し、仕上がりを確認した上で本塗装を行ってください。舗装して間もないアスファルト面には、油分が表面に染み出てこないようになるまで(舗装後3週間程度が目安です)塗装は避けてください。

荷 姿

水性アーキフロアープライマー 15kg石油缶（標準塗坪：75~100m²/缶）
アーキフロアーAWG 15kg石油缶、4kg缶（標準塗坪：平滑工法50m²/15kg缶、NS工法33m²/15kg缶）
けい砂6号 30kg袋

NS工法（防滑仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	乾燥時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	水性アーキフロアープライマー	既調合	0.15 ~ 0.20	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
中 塗 り	ア ー キ フ ロ ア ー A W G	100	0.15	1	—	10分 以内	—	ローラー 刷 毛
	清 水	0~10	—					
けい砂 散 布	け い 砂 6 号	—	0.25	1	—	8以上	—	手散布 又は吹付
	ア ー キ フ ロ ア ー A W G	100	0.30	2	3 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
上 塗 り	清 水	0~10	—					

- 旧塗膜の改修には水性アーキフロアープライマーを使用せず、アーキフロアーAWGを直接塗装、あるいは、水性速硬型ミラフロアープライマーを使用してください。

アーキフロアーAW

平滑工法（コーティング仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	乾燥時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
上 塗 り	ア ー キ フ ロ ア ー A W	100	0.30	2	3 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	清 水	0~20						

- 下地がモルタル金こて押さえ面（緻密）の場合及び吸い込みが著しい場合は、アーキフロアーEHプライマーをあらかじめ塗付してください。
- アスファルト面に施工する際は、下地の吸い込みが著しい場合には、水性速硬型ミラフロアープライマーを塗装後、アーキフロアーAWの塗装を行ってください。アスファルト面ではアーキフロアーAWの塗付け量（2回塗り時）は「1.0~1.4kg/m²」、清水での希釈率は刷毛・ローラー塗り時で「10~20%」となります。

荷 姿

アーキフロアーAW 20kg石油缶、4kg缶（標準塗坪：平滑工法66m²/20kg缶、NS工法33m²/20kg缶）
けい砂7号 30kg袋

NS工法（防滑仕上げ）

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	乾燥時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H I-500・H I-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
	ア ー キ フ ロ ア ー A W	100	0.40	1	—	3 以上	—	こ て レーキ
下 塗 り	け い 砂 7 号	20						
	清 水	5~10	—					
上 塗 り	ア ー キ フ ロ ア ー A W	100	0.60	1	—	—	24 以上	こ て レーキ
	け い 砂 7 号	120						
	清 水	5~10	—					

アーキフロア-AS

平滑工法（コーティング仕上げ） (22%)

(23°C)

工 程	材 料 名	調合比 (重量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工程内	工程間	最終養生	
素地調整	・下地表面のレタス、油脂、汚れ、ごみなどを念入りに除去する。(ポリリッシャー型研削機を使用)							
	・含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計H-500・H-520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であることを。							
	・pH測定(pH試験紙)にて10以下であることを。							
下 塗 り	アークフロア—A S	100	0.20	1	—	2 以上	—	ローラー 刷 毛
	エナメル用シンナー	30~60	—					
上 塗 り	アークフロア—A S	100	0.15	1	—	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	エナメル用シンナー	30~60	—					

1. 下地がモルタル金こて押さえ面（緻密）の場合及び吸い込みが著しい場合は、アーキフロア-EHプライマーをあらかじめ塗付してください。
2. 一度に厚塗りすると、溶剤分が塗膜中に残存する場合がありますのでご注意ください。

荷 姿

★アーキフロア-AS 15kg石油缶、4kg缶
(標準塗坪: 平滑工法42㎡/15kg缶)

★エナメル用シンナー 16ℓ石油缶

SKバリアーコート

散布型 (22°C)

(23°C)

工 程		材 料 名	調 合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)		備 考	
						工程間	最終養生		
下地 処理	新設	・ 下地はよく乾燥させ、含水率8%以下、pH10以下としてください。新設コンクリートの養生時間は、打設後夏期で3週間以上、冬期で4週間以上を目安としてください。 ・ 付着物やレタンス層などがある場合、ワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで除去した後、入念に清掃してください。(ホウキを用いた掃除は不可)							—
	改修	・ ワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで汚れ、レタンス、油脂を除去し、掃除機などで入念に清掃してください。(ホウキを用いた掃除は不可)							
上 塗り		S K バ リ ヤー コ ー ト	既調合	0.15 ~ 0.25	1	0.5~1	—	ジョーロ 低圧噴霧器	
水 拭 き		余剰分をモップ等で拭き取り均一に塗り広げた後、塗付面を十分に水拭きする。					—	24 以上 モップ	

1. 下の状態によって、重量が変わることで吸い込みが大きい下の場合は、追加で散布して、また、凹部で材料が溜まりやすい場合、所置で均一に塗布していく。溜まりのまま硬化させる白化やひび割れが生じる場合があります。(カラコンやフクロコン、機械コテ押さなど吸い込みの少ない下の所要重量は、 $0.15 \sim 0.20 \text{ kg/m}^2$ を目安としてください。)
2. SKVリバーコートはクリヤ仕上げのため、下のコンクリートの色違い、吸い込みむら、及びびひ割れや欠損損傷を隠すことでできると見えます。特に改築工事の場合は、下のコンクリートの色塗りを色すくなくすので、予めご了承ください。

荷 姿

SKバリヤーコート 18kg石油缶 (標準塗坪: 72~120㎡/缶)

アーキタイトエコ

散布型 (23℃)

(23°C)

工 程		材 料 名	調 合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)		備 考	
						工程間	最終養生		
下地 処理	新 設	・ 下地はよく乾燥させ、含水率8%以下、pH10以下としてください。新設コンクリートの養生時間は、打設後夏期で3週間以上、冬期で4週間以上を目安としてください。 ・ 付着物やレタナス層などがある場合、ワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで除去した後、入念に清掃してください。(ホウキを用いた掃除は不可)							—
	改 修	・ ワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで汚れ、レタナス、油脂を除去し、掃除機などで入念に清掃してください。(ホウキを用いた掃除は不可)							
上 塗 り		ア ー キ タ イ ト エ コ	既調合	0.15 ～ 0.25	1	0.5～1	—	ジョーロ 低圧噴霧器	
水 拭 き		余剰分をモップ等で拭き取り均一に塗り広げた後、塗付面を十分に水拭きする。				—	24 以上	モップ	

1. 下地の状態によって、所要量が変わりますので吸い込みが大きい下地の場合は、追加で散布してください。また、凹部で材料が強った場合、モップ等で均一に塗り広げてください。溜まったまま硬化させると白化やひび割れが生じる場合があります。カラコンやフレイク、機械コチ押えなど吸い込みの少ない下地の所要量は、0.15～0.20kg/m²を目安としてください。）
2. アークタイト工はフレイク仕上げるため、下地のコンクリートの色違い、吸い込みむら、及びひび割れや欠損跡跡を隠すことができません。特に改修工事の場合は、下地の劣化の影響を受けやすくなりますので、予めご了承ください。

荷 姿

アーキタイトエコ 18kg石油缶（標準塗坪：72～120㎡/缶）

導電型ミラクフロー

平滑工法（コーティング仕上げ）

(22°C)

工 程	材 料 名	調 合 (量比)	塗付け量 (kg/m ²)	塗り回数	間隔時間 (hr)			備 考
					工区内	工区間	最終養生	
素地調整	・ 下地表面のレイタンス、油脂、汚れ、こみなどを念入りに除去する。(ポリシヤ型研磨機を使用) ・ 含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケイト水分計H-1500・H-1520)にてコンクリートレンジ表示値5%以下であること。 ・ pH測定(pH試験紙)にて10以下であること。							—
下 塗 り	導電型ミラクフロアプライマー 主 剤	100	0.14	1~2	4 以上	4 以上	—	ローラー 刷 毛
	導電型ミラクフロアプライマー 硬化剤	25	0.18					
上 塗 り	E H シ ン ナ	2~6	0.35	2	8 以上	—	24 以上	ローラー 刷 毛
	導電型ミラクフロア 主 剤	100						
	導電型ミラクフロア 硬化剤	25						
	E H シ ン ナ	3~14	—					

1. 吸い込みが多い下地の場合など、必要に応じて導電型ミラクフロアプライマーを2回塗りしてください。
2. 旧塗膜がある場合や塗装階が2階以上である場合は、アースの設置が必要です。

荷 姿

★導電型ミラクフロアプライマー	主剤：12kg石油缶 硬化剤：3kg缶 (標準塗布：83~107㎡/セット)
★導電型ミラクフロア	主剤：12kg石油缶 硬化剤：3kg缶 (標準塗布：42㎡/セット)
★EHシンナー	16ℓ石油缶

下地処理工法

脆弱下地・不陸面

1 ケレン除去

2 清 掃

ほこり、付着物除去。

3 プライマー または水打ち

4 混 練

5 こて 塗り

6 養 生

脆弱下地面へは直接塗床施工が出来ないため、ケレン機により脆弱表層部を完全に除去し不陸修正機にて段差・不陸修正を行います。



- *注 (1)比較的面积が広い場合には、SKウェットフィラーが経済的です。
(2)SKウェットフィラーの可使時間は20分(23℃)、乾燥時間は8時間以上です。
(3)詳しい施工要領については別途下地補修材の資料を参照してください。

油 潤 面

1 清 掃

ほこり、付着物除去。特に油潤した付着物はケレン棒、ワイヤーブラシ、ディスクサンダーにて除去。

2 油面洗浄

ミラククリーナー均一塗付(0.15~0.20kg/㎡)。

3 ブラッシング

デッキブラシ、ワイヤーブラシなどにて表面を擦る。

4 水洗い・乾燥

表面を水洗いし、バキューム及びモップなどで水分を除去、乾燥させる。(乾燥時間は23℃で2~4時間)

5 プライマー塗付

ミラクフローアMHプライマーを刷毛またはローラーにて塗付(0.15~0.20kg/㎡)。
(次工程との工程間隔は23℃で1時間以上)

6 仕 上 げ

各種塗床材施工。

下地コンクリートまたはモルタルが油潤している状態では、一般に塗装工事は不可能です。しかし特殊油面クリーナー(ミラククリーナー)を使用すれば、浸み込んでいる油類まで抽出、洗浄でき、塗床材の施工が可能になります。
油潤層が厚い場合は、ケレン機により完全に除去する必要があります。



- *注 (1)ミラククリーナーで洗浄後、油分が残っている場合には再洗浄を行ってください。
(2)プライマーの浸透が悪い場合には再乾燥後、再塗付してください。
(3)塗床材がSKセラミフローアの場合は、ミラクフローアMHプライマーを使用した後でもSK#2000プライマーの工程が必要です。

湿 潤 面

1 清 掃

ほこり、付着物除去。表面水滴は拭き取り、良く乾燥させる。

2 プライマー塗付

ミラクフローアMHプライマーを刷毛またはローラーにて塗付(0.15~0.20kg/㎡)。
(次工程との工程間隔は23℃で1時間以上)

3 仕 上 げ

各種塗床材施工。

下地コンクリートまたはモルタルはできるだけ乾燥養生された状態で塗床工事を実施します。
しかし工期の関係などで多少湿潤状態で施工する必要がある場合はこの工法を適用してください。



- *注 (1)プライマーの浸透が悪い場合には再乾燥後、再塗付してください。
(2)下地水圧が高く、水があふれ出る場合は施工出来ません。
(3)塗床材がSKセラミフローアの場合は、ミラクフローアMHプライマーを使用した後でもSK#2000プライマーの工程が必要です。

微生物汚染面

- 1 清掃 ほこり、付着物除去。特にかびが発生した付着物はケレン棒、ワイヤーブラシ、ディスクサンダーにて除去。SKKカビ除去剤#5にて殺菌処理する。
- 2 水洗い・乾燥 表面を多量の水で洗浄し、バキューム及びモップなどで水分を除去、乾燥させる。(乾燥時間2~4時間)
- 3 プライマー塗付 ミラクフロア-MHプライマーを刷毛またはローラーにて塗付(0.15~0.20kg/m²)。(次工程との工程間隔は23℃で1時間以上)
- 4 仕上げ 各種塗床材施工。

*注 (1)SKKカビ除去剤#5洗浄の場合は、カビ除去剤が残らないよう充分に洗浄してください。
 (2)プライマーの浸透が悪い場合には再乾燥後、再塗付してください。
 (3)SKKカビ除去剤#5ご使用の際は、P33からの「危険情報と安全対策」をよくお読みください。
 (4)塗床材がSKセラミフロアの場合は、ミラクフロア-MHプライマーを使用した後でもSK#2000プライマーの工程が必要です。

かびなどの生物汚染は水洗いでは完全に除去できません。専用の殺菌剤(SKKカビ除去剤#5)にて微生物を殺菌した後、塗床材を施工します。



高密度コンクリート面

- 1 清掃 ほこり、付着物除去。
- 2 表面洗浄 ミラククリーナー塗付(0.15~0.20kg/m²)後、ポリッシャーなどにて表面を良くブラッシングする。
- 3 水洗い・乾燥 表面を水洗いし、バキューム及びモップなどで水分を除去、乾燥させる。(乾燥時間は23℃で2~4時間)
- 4 仕上げ 各種塗床材施工。

*注 (1)ミラククリーナーで洗浄後、油分が残っている場合には再洗浄を行ってください。
 (2)プライマーの浸透が悪い場合には再乾燥後、再塗付してください。
 (3)下塗りにミラクフロア-MHプライマーをご使用の場合は各種塗床材のプライマー工程は不要です。

高密度コンクリート(カラーコンクリートなど)は、油潤面と同様プライマーが浸透、密着しないため、一般には改修工事が出来ない場合が多いのですが、特殊油面クリーナー(ミラククリーナー)と機械洗浄機との併用で床改修工事が可能となります。また状況により表層除去も必要になります。



旧塗膜面

- 1 清掃 ほこり、付着物除去。
- 2 目荒し 旧塗膜をポリッシャーなどを用いて全面サンディング処理を行う。
- 3 集塵 掃除機などで研磨カスを取り除く。
- 4 仕上げ 各種塗床材施工。

*注 (1)下地に脆弱部があると付着不良の原因となりますので、ワイヤーブラシ等の手工具であらかじめ除去してください。
 (2)下地のクラック、不陸等は仕上り不良の原因となりますので、あらかじめ下地調整を行ってください。

塗膜の種類により、適切な処理が必要です。各種旧塗膜がある状態での改修においては、旧塗膜との適合性が重要となります。詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。

床用下地調整材

水溶性油面クリーナー

ミラククリーナー

■特長

コンクリート・モルタルの表層2～3mm程度まで含浸・付着した鉱物油・植物油・動物油などを短時間で抽出・分解して洗浄、除去します。

- ①機械類に付着しても水で洗い流せます。
- ②火災の心配がなく安全です。

■用途

油脂除去用強力洗浄剤

■荷姿

ミラククリーナー 10kg ポリ缶

■標準施工仕様

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
ミ ラ ク ク リ ー ナ ー	既調合	0.15～0.20	1	—	3以上	ジョーロにて散布

※洗浄後は、ミラクフロアーMHプライマーなどの湿潤面用プライマーを使用してください。

■施工要領

- (前 処 理) 付着物は予めケレン除去する。
- (ブラッシング工程) 散布後、30分以内にデッキブラシまたはワイヤーポリッシャーなどで充分にブラッシングする。
- (水 洗 工 程) 水洗いでミラククリーナーを完全に除去する。
- (乾 燥 工 程) 2～3 (冬期3～4) 時間乾燥させ、下地表面が白化してきたら次の工程に移る。

■注意事項

- ①取り扱い作業時には、ゴム手袋を着用してください。皮膚などに付着した場合は、速やかに水洗いしてください。
- ②洗浄後は下地表面が白色になります。ただし、油が多く含浸し、数時間後に油が再び表面へ移行して黒くなるような場合は、下地表層を適宜ケレン除去してください。
- ③実際にご使用になる場合は、製品容器に記載されている注意事項をご確認ください。

二液反応硬化形エポキシプライマー

ミラクフロアーMHプライマー

■特長

湿潤・湿油した下地をミラククリーナーで洗浄し、乾燥させた後に使用します。

- ①乾燥養生が不十分な場合でも (含水率15%以下) 施工でき、工期の短縮が図れます。
- ②多少の湿油面でもミラククリーナーで洗浄後、施工することができ、各種塗床材の塗付が可能になります。

■用途

湿潤・湿油面の専用下塗材

■荷姿

★ミラクフロアーMHプライマー

主 剤 8 kg 缶
硬化剤 8 kg 缶

■標準施工仕様

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
ミラクフロアーMHプライマー 主 剤	100	0.15～0.20	1	—	1以上	ローラー、刷毛
ミラクフロアーMHプライマー 硬化剤	100					

※ウレタン樹脂系仕上材を塗付する場合には、24時間以上の養生が必要です。

■品質性状

項 目	結 果	条 件
可 使 用 時 間 (hr)	3.0	23℃
タックフリー (hr)	0.5	23℃

■注意事項

- ①水が溢れる湿潤面には施工できません。
- ②ミラククリーナーで洗浄した後は、3～4時間 (23℃) の乾燥が必要です。
- ③高密度コンクリート (カラーコンクリートなど) のような特殊下地は、ミラククリーナーでハードポリッシング洗浄を行ってください。
- ④脆弱コンクリートに施工する場合、表面

を補強するなどの事前処理が必要です。

- ⑤湿潤・湿油の度合い確認のため、できるだけ本施工の前に試験施工を行ってください。
- ⑥洗浄にはEHシンナーをご使用ください。
- ⑦塗床材がSKセラミフロアーの場合は、SK#2000プライマーが必要です。
- ⑧実際にご使用になる場合は、必ず別途施工要領書をお読みいただき、施工時の注意事項などをご確認ください。

エポキシパテ

SKコークH

■特長

ひび割れの充てん用に使用し、皮膚毒性にも配慮した設計で、安全性に優れ、施工性も良好です。

- ①コンクリート・モルタルなどの接着性に優れています。
- ②無溶剤性で、安全に使用できます。
- ③耐水性、耐アルカリ性に優れています。

■用途

コンクリート・モルタルのひび割れ、段差補修

■荷姿

★SKコークH

A 剤 2 kg 缶
B 剤 2 kg 缶

■標準施工仕様

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
S K コ ー ク H A 剤	100	適 宜	1	—	5以上 7日以内	パテべら、こてなどにより凹部へしごき塗り
S K コ ー ク H B 剤	100					

■品質性状

試 験 項 目	性 状
外 観	A 剤 淡桃色ペースト
	B 剤 淡青色ペースト

■可使時間

気温	製品の種類	
	S (夏型)	W (冬型)
5℃	120分以内	60分以内
20℃	60分以内	30分以内
35℃	45分以内	—

■注意事項

- ①SKコークHの取り扱い、労働省労働基準局長通達第477号、並びに製品容器に表示された取り扱い注意事項を遵守してください。
- ②皮膚などに付着した場合は、速やかに水洗してください。
- ③主剤と硬化剤の混合攪拌が不十分な場合には硬化不良を起こすことがありますので、ご注意ください。
- ④実際にご使用になる場合は、必ず別途施工要領書をお読みいただき、施工時の注意事項などをご確認ください。

SKウェットフィラー

ホルムアルデヒド
放 散 等 級 F★★★★

■特長

特殊変性エポキシ樹脂をベースにした、多機能型床用下地調整塗材です。

- ①若令コンクリート・湿潤コンクリートの塗床用下地調整塗材として効果を発揮し、下地コンクリートに浸透して固着性を高めます。
- ②若令コンクリートの養生膜として作用するため、従来工法より強固な下地が得られます。
- ③大幅な工期の短縮につながります。
- ④耐水性・耐アルカリ性・耐薬品性などに優れています。
- ⑤高強度のため、重歩行用下地調整に最適です。

■用途

- ①新設若令コンクリートモルタルの下地調整
- ②旧塗膜を侵さない改装下地の下地調整
- ③巣穴・ピンホールなどの目止め材
- ④脆弱下地の補強
- ⑤欠損部の補修、下地の不陸・段差修正

■荷姿

SKウェットフィラー

- ★主 剤 2kg 缶
- 硬化剤 4kg ポリ容器
- 粉 体 10kg 袋

※粉体については危険物に該当しません。

■標準施工仕様

しごき塗り

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
SKウェットフィラー 主 剤	20	0.6~ 1.0	1	-	8以上	こて、パテべら、 ゴムへら
SKウェットフィラー 硬化剤	40					
SKウェットフィラー粉 体	100					
清 水	0~4	-				

流し延べ塗り

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
SKウェットフィラー 主 剤	20	1.0~ 1.5	1	-	8以上	こて、パテべら、 ゴムへら
SKウェットフィラー 硬化剤	40					
SKウェットフィラー粉 体	100					
清 水	0~4	-				

欠損補修

(23℃)

材 料	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	工程間	
SKウェットフィラー 主 剤	20	18 (10mm)	1	-	8以上	こて、パテべら
SKウェットフィラー 硬化剤	40					
SKウェットフィラー粉 体	100					
け い 砂 7 号	40					
清 水	20~30	-				

■注意事項

- ①脆弱部及び付着物はケレン除去してください。程度によりディスクサンダーや機械ケレンを行う必要があります。
- ②SKウェットフィラーの強度は非常に強く、下地を引っ張ることがあるため、新設モルタルなどは必ずレイタンス層の除去を行ってください。また、新設コンクリートの場合、コンクリート打設後浮き水がなくなり次第、表層のレイタンスを除去してください。
- ③旧塗膜は付着性が十分であることを確認しておいてください。
- ④吸い込みのある下地はあらかじめ散水を行い、吸い込みを止めておいてください。
- ⑤ひび割れや段差修正はあらかじめ行い、補修材が硬化してから「しごき塗り」などで施工してください。
- ⑥油潤面の改装の場合、あらかじめミラククリーナーで洗浄・脱脂しておいてください。
- ⑦調合方法は、まず主剤・硬化剤を十分に混合攪拌した後、粉体・清水・けい砂などを投入してください。
- ⑧皮膚に刺激を与える場合がありますので、取り扱いには十分注意してください。
- ⑨SKウェットフィラーは混合後、可使時間内(23℃で20分)に使い切ってください。
- ⑩弾性系塗床材の上には施工できません。
- ⑪実際にご使用になる場合は、必ず別途施工要領書をお読みいただき、施工時の注意事項などをご確認ください。

施工上の注意点

【共 通】

- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、(湿度85%以上)での施工は原則的に避けてください。やむを得ず施工を行う場合には、必ず採暖等により雰囲気温度・被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- ①含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計HI-500・HI-520)により、コンクリートレンジ表示値で5%以下、②pH試験紙による測定で、pH10以下、であることを必ず確認してください。
- 下地コンクリートは打設後4週間以上、モルタルは2週間(冬季3週間)以上の養生をとり、かつ十分に乾燥させてください。
- 水勾配は下地モルタルでとってください。
- 軽量コンクリートは塗床下地として適していませんので、できるだけ塗装は避けてください。
- 塗膜の影れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- 油面コンクリートは下地処理の方法が異なります。
- 風化したコンクリート、雨に打たれたり凍結により強度のないコンクリートについてはご相談ください。
- 下地にレイタンスや脆弱部があると付着不良の原因となります。電気サンダーやワイヤーブラシなどであらかじめ除去してください。
- 下地のクラック、不陸等は仕上がり不足の原因となりますので、あらかじめ下地調整を行ってください。
- 材料は規定の範囲内の希釈を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌してください。
- 十分な塗膜性能を確保するため、所定の塗回数、塗付量、膜厚を確保してください。
- 塗付け量、所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
- コンクリート、モルタル下地の含水率は、塗膜性能(付着性、影れなど)に影響を与えるため、高周波静電容量式水分計(ケット水分計HI-520)を使用し、コンクリートレンジの表示値5%以下に管理してください。

- アークフロアーEH無溶剤、水性速硬型ミラクフロアー、導電型ミラクフロアー、SKセラミフロアーは施工後、24時間で歩行は可能ですが、十分な耐久性、特に耐薬品性を発揮させるには1週間(23℃)の最終養生が必要です。
- **各標準施工仕様に記載の使用量及び間隔時間を守り、施工してください。**
- 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。また、気温5℃以下、湿度85%RH以上の時は、塗膜の白化、艶引け、硬化不良、付着不良の原因となることがありますので、施工を避けてください。
- 内部の塗装で、換気が十分出ない場合や風通しの悪い場合、塗膜中の蒸気が滞留し、塗膜の乾燥が遅くなったり、硬化不良の原因となるおそれがあります。必ず十分な換気を行い、塗膜が十分に乾燥、硬化できるようにしてください。
- 食品工場に使用する場合は、臭いが製品に移らないよう、十分な対策を取ってください。
- 乾燥過程で水(降雨)、結露など水分の影響を受けると白化することがあります。
- 施工部位を確認し、養生が適切に行われているかを確認してください。
- 材料の保管時は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で保管してください。
- 凍結させないように3℃以上の室内に保管してください。
- 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。

【二液の製品が対象】

- 材料は、開缶後十分に攪拌してから、必ず計量器を利用し、製品缶に記載の比率を厳守して正確に混合してください。異なった比率で混合すると、硬化不良、塗膜異常の原因となります。

- **材料の混合は十分にを行い、可使時間以内に使い切るようにしてください。可使時間を経過したものを使用しますと、艶引け、硬化不良、付着不良などの原因となります。**

【溶剤・無溶剤の製品が対象】

- 塗装中は換気を良くし、火気の取扱いには注意してください。
- 周辺での火気、スパーク、高温物には注意してください。
- 静電気対策のため、使用する装置などは接地してください。

注 意 点

ご使用前には各製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

気 象 条 件

[施工時の天候]
[施工時の温度]

- 室内であっても、降雨・降雪時あるいはそのおそれがある場合は、できるだけ施工を避けてください。
- 一般的に、温度が低くなるほど材料の粘度は高くなり、ローラー塗り、刷毛塗り、こて塗りなどの作業性が悪くなります。また、温度が低くなるほど乾燥速度や硬化速度も遅くなりますので、5℃以下での施工は避けてください。一方、温度が高くなるほど可使時間が短くなりますので、塗り継ぎなどの問題が生じないようにご注意ください。なお、材料の保管やネタ場などは、直射日光の当たらない風通しの良い場所にしてください。夏期と冬期に使用する材料を区分けしている製品もありますので、必ず施工時の温度に適した材料を使用してください。
- 相対湿度85%以上の高湿度下では、塗膜の白化、艶引け、発泡、硬化不良、付着不良の原因となることがありますので、相対湿度85%以上での施工は避けてください。一方、低湿度下でセメント系下地調整塗材を施工すると、急激に乾燥して、硬化不良やドライアウトを起こす原因となることがありますので、ご注意ください。

施 工 条 件

[換 気]

- 風通しの悪い場所や室内で施工すると、塗膜に含まれる水分や有機溶剤などの蒸気が滞留し、塗膜の乾燥が遅くなったり、硬化不良の原因となります場合があります。特に有機溶剤の蒸気密度は空気よりも大きく、発生した蒸気は床面に滞留しやすい傾向がありますので、必ず強制換気装置を設置してください。
- 下地にピンホールがある場合は、専用プライマーとセメントを100対0~20（重量比）で混合したものをこてでしごき、表面を平滑にしてください（水性アーキフロアプライマー、水性速硬型ミラクフロアプライマーは、この手法を適用できません）。
- コンクリートなどの下地はよく乾燥させ、含水率5%以下、pH 8~10としてください。また、新築の場合、コンクリート打設後、夏期で2週間以上、冬期で4週間以上を目安としてください。特に、新築コンクリートモルタル面の場合、レイトンスなどの理由により下地表面強度が低いことがありますので、ポリッシャー等による洗浄を行ってください。
- ガム、油脂類などの付着物は完全に除去し、突起物はディスクサンダーで削り、平滑にしてください。段差などの大きな不陸部分は、施工目的に応じた下地調整塗材を使用し、表面が平滑になるように補修してください。
- その他の下地調整方法については、別途、施工要領書を参照してください。
- 二液混合タイプの塗床材は、可使時間があります。可使時間内に施工可能な量だけ割合して使用してください。
- 材料は開缶後十分に撹拌してから、必ず計量器を使用し、各製品缶に記載されている比率を厳守して割合してください。また、割合したものは必ず低速撹拌機を使用して均一になるように十分混合撹拌してください。なお、容器壁に付着した材料は混合不良となっていますので、ゴムへらなどでかき落とすなどして使用しないでください。

[下 地 調 整]

[材 料 の 調 合]

その他の留意事項

- アーキフロアEHマイルド、アーキフロアEH、アーキフロアEH無溶剤、アーキフロアEH無溶剤ローラー、アーキフロアUE、導電型ミラクフロア、水性速硬型ミラクフロアを直射日光の当たるところまたは紫外線の影響を受ける部位に施工すると変色しますので、使用しないでください。
- 希釈には必ず当社の専用シンナーを使用してください。その他のシンナーを使用すると、色むらや硬化不良、発泡などの原因となりますので、ご注意ください。
- シンナー、清水による過剰希釈並びに極端な薄塗りは、硬化不良や変色などの原因となりますので、ご注意ください。
- 混合撹拌した材料を容器中に入れたまま放置しておくと、蓄熱して可使時間が短くなりますので、二液反応硬化型材料の場合、撹拌後は小分けするか、できるだけ速やかに塗付してください。
- アーキフロアUEを直射日光の当たる箇所に施工する場合は、変色防止のため必ずアーキトップ#2000を塗付してください。

危険情報と安全対策

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

各 種 共 通

[応 急 処 置]

- 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。
- 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。
- 眼に入った場合は、清浄な水で充分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。
- 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
- 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。
- 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。
- 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- 容器を密封し、凍結・直射日光を避け5~40℃の乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が出入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。（製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。）
- 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを行ってください。
- 製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

[廃 棄]

[保管及び取り扱い]

[安 全 衛 生]

[施工後の注意]

溶 剤 形 塗 料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

〔保管及び取り扱い〕

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器/換気装置/照明機器/工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ①取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ②容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように充分注意してください。

〔安全衛生〕

硬化剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

〔保管及び取り扱い〕

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器/換気装置/照明機器/工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ①取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ②容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
 - ⑤作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ⑥液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。
- 施工においては、溶剤成分が、室内に流入しないように充分注意してください。

〔安全衛生〕

希釈用溶剤

希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

〔保管及び取り扱い〕

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器/換気装置/照明機器/工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ①取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ②取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ③容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように充分注意してください。

〔安全衛生〕

水性塗料

〔安全衛生〕

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
- 水性塗料（荷姿に★印のついている製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ①取り扱い場所は換気をしてください。
 - ②取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。



エスケー化研株式会社

本社 大阪府茨木市中穂積3-5-25 ☎072-621-7733
東京支社 東京都新宿区高田馬場1-31-18 ☎03-3204-6601 国際事業本部 ☎072-621-7727

札幌支店 ☎011-784-4000 千葉支店 ☎043-304-0411 名古屋支店 ☎052-561-7712 神戸支店 ☎078-671-0451 福岡支店 ☎092-629-3427
仙台支店 ☎022-259-2431 埼玉支店 ☎048-686-2391 京都支店 ☎075-646-3967 広島支店 ☎082-943-5043
東京支店 ☎03-3204-6601 横浜支店 ☎045-820-2400 大阪支店 ☎072-621-7721 高松支店 ☎087-865-5411

旭川営業所 ☎0166-51-8094 宇都宮営業所 ☎028-657-5555 横浜出張所 ☎045-820-5525 大阪営業所 ☎072-621-7722 福岡営業所 ☎092-622-5561
仙台出張所 ☎022-388-8518 総務・工務部 ☎03-3204-6601 厚木営業所 ☎046-294-3666 大阪出張所 ☎072-621-7747 福岡出張所 ☎092-622-5562
青森営業所 ☎017-762-3855 東京出張所 ☎03-3204-6602 静岡営業所 ☎054-284-1877 南大阪営業所 ☎072-253-1910 大分営業所 ☎097-555-9081
盛岡営業所 ☎019-654-8380 千葉営業所 ☎043-304-0411 浜松営業所 ☎053-462-7021 神戸出張所 ☎078-671-0451 長崎営業所 ☎095-887-0871
郡山営業所 ☎024-962-7673 千葉出張所 ☎043-304-0413 三河営業所 ☎0564-28-1614 姫路出張所 ☎079-281-5311 熊本営業所 ☎096-344-5650
新潟営業所 ☎025-285-6551 埼玉出張所 ☎048-686-2391 北陸営業所 ☎076-266-1041 岡山営業所 ☎086-242-5520 鹿児島営業所 ☎099-284-5321
群馬営業所 ☎027-280-5350 埼玉出張所 ☎048-686-1586 名古屋営業所 ☎052-561-7712 広島出張所 ☎082-943-5053 宮崎出張所 ☎0985-61-7779
長野営業所 ☎026-239-6210 城東営業所 ☎03-3877-7770 名古屋出張所 ☎052-589-6783 山口営業所 ☎083-924-7575 沖縄営業所 ☎098-862-5041
松本営業所 ☎0263-24-2677 三多摩営業所 ☎042-564-5806 岐阜営業所 ☎058-273-1981 松山出張所 ☎089-968-7240
水戸営業所 ☎029-251-6515 横浜営業所 ☎045-820-2400 三重営業所 ☎059-254-3777 北九州営業所 ☎093-621-8505

大利根工場・埼玉工場・神奈川工場・名古屋工場・大阪工場・兵庫工場・九州工場

このパンフレットに記載の商品は、予告なしに仕様や取り扱いを変更することがあります。また、このパンフレットに記載の内容について、無断転載・複製を禁じます。
特記仕様がある場合は、これを最優先してください。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。

URL <http://www.sk-kaken.co.jp>



特約販売店